

専 攻 科 (保育専攻)

〈2019年度入学生〉

教育学区分	授 業 科 目		単位	単位数		履修法	1年		2年		幼稚園一種免	
				必修	選択		前期	後期	前期	後期		
以外 関連	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	幼児英語指導法	2		2	講義			○		☆	
		実践コンピュータ	2	2		演習		○			☆	
専門	領域に関する専門的事項	幼児国語	2		2	講義					☆	
		幼児算数	2		2	講義				○	☆	
		幼児生活	2		2	講義		○			☆	
		音楽研究Ⅰ	1	1		演習	○				☆	
		音楽研究Ⅱ	1		1	演習		○			☆	
		図画工作研究Ⅰ	1	1		演習	○				☆	
		図画工作研究Ⅱ	1		1	演習	○				☆	
		体育研究Ⅰ	1	1		演習			○		☆	
		体育研究Ⅱ	1		1	演習					☆	
	教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	保育職特論	2	2		講義				○	☆
			保育原理特論	2	2		講義	○				☆
			特別支援教育特論	2		2	講義				○	☆
			心身の発達と学習過程	2	2		講義		○			☆
			保育経営論	2	2		講義		○			☆
			カリキュラム特論	2		2	講義			○		☆
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容(表現音楽)研究Ⅰ	2	2		演習			○		☆
			保育内容(表現音楽)研究Ⅱ	2		2	演習				○	☆
保育内容(表現造形)研究Ⅰ			2	2		演習				○	☆	
保育内容(表現造形)研究Ⅱ			2		2	演習					☆	
保育内容(人間関係)研究			2	2		演習		○			☆	
保育内容(環境)研究			2		2	演習	○				☆	
保育内容(言葉)研究			2		2	演習	○				☆	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法、及び生活指導、教育相談等に関する科目		臨床心理学特論	2		2	講義					☆	
		保育児童(子育て)相談	2	2		講義			○		☆	
その他の基礎科目		子どもと道徳	2		2	講義						
		ホスピタリティ論	2	2		講義				○		
関連												

教育学区分	授 業 科 目	単 位	単 位 数		履 修 法	1 年		2 年		幼稚園一種免
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	
専門	障 害 福 祉 論	2	2		講義				○	
	子ども家庭援助技術特論	2		2	講義			○		
	子ども家庭福祉特論	2	2		講義	○				
関連	世 代 間 交 流 論	2		2	講義			○		
専門	そ の 他 の 専 門 教 育 科 目	保 育 者 看 護 論	2		2	講義			○	
		児 童 文 化 研 究	2		2	講義		○		
		保育実践特別研究Ⅰ	2		2	演習	○			
		保育実践特別研究Ⅱ	2		2	演習		○		
		保育実践特別研究Ⅲ	2		2	演習			○	
		保育実践特別研究Ⅳ	2		2	演習				○
		修 了 研 究 Ⅰ	2	2		演習	○			
		修 了 研 究 Ⅱ	2	2		演習		○		
		修 了 研 究 Ⅲ	2	2		演習			○	
以外		修 了 研 究 Ⅳ	2	2		演習				○
		文書購読プレゼンスキル演習	2		2	演習	○			
		生 涯 ス ポ ー ツ	1		1	演習				○
		芸 術 論	2		2	講義				○
合 計		83	35	48						

修了の要件

必修科目36単位は必ず履修し、62単位以上の修得を修了の要件とする。

※教育学区分は、専門科目、関連科目、専攻に係る以外の科目の別を示す。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
講師 ルーク・ロベージュ 20			

講義概要	<p>COURSE OBJECTIVE : This course is designed to give students a brief introduction to the skills needed to teach English to young learners. Students will practice leading and designing songs, games and exercise. Also, focus will be on adapting and developing appropriate teaching materials. Students will acquire teaching skills through hands-on practice. Students will become familiar with popular EFL teaching resources. Students will also practice planning their own games and activities and presenting them to the class.</p> <p>Students that excel at course work and peer-teaching will have the opportunity to teach at a pre-school or for an elementary-aged English program.</p>
授業計画	<p>1 Introduction (4月7日) 幼児期の英語教育・学習とは 子どもたちが初めに学ぶ英語とはどのようなものか(物質名詞・(抽象名詞)、動詞、形容詞) 見ることができるもの、触ることができるもの、五感で感じられるもの 授業の進め方、評価方法などの説明 学習課題 復習：なし 予習：なし</p> <p>2 Flash Cardプロジェクト① (4月14日) 語彙習得のためのフラッシュカード作り(一人ずつ異なるカテゴリーのカードを作成)：物質名詞(果物・動物)、動詞、形容詞 apple→red→circle→sweet等の関連・連想 単語数はカテゴリーによって異なる(5~20) コンピュータを使ってカード作り(プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート できれば次回プレゼンテーションの構成作成(ピクチャーカードを使用したメモリーゲーム等含む) 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カテゴリー決め</p> <p>3 Flash Cardプロジェクト② (4月21日) フラッシュカード作成 コンピュータを使ってカード作り(プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>4 Flash Cardプロジェクト③ (4月28日) フラッシュカード作成 コンピュータを使ってカード作り(プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>5 Flash Cardプロジェクト④ (5月12日) フラッシュカード、レッスンプラン作成 練習 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>6 Flash Cardプロジェクト⑤ (5月19日) レッスンプラン作成 フラッシュカードレッスンリハーサル 学習課題 復習：フラッシュカードレッスンリハーサル 予習：フラッシュカードレッスンリハーサル</p> <p>7 Flash Cardプロジェクト⑥ (5月26日) 各自プレゼン練習 プレゼン発表 Peer Evaluation (フラッシュカードの構成、大きさ、プレゼンの態度、長さ) 学習課題 復習：フィードバックに関して考え、次に活かす 予習：次回プロジェクトのテーマ選択</p> <p>8 English Songs for Kids① (6月2日) 英語のうたを通して子どもたちの英語能力を高めるのに効果的な方策とは 例として英語のうた"do-rei-me"歌詞の解説と実践 英語のうたを選択→内容理解 学習課題 復習："do-rei-me"歌詞の内容、歌の選択に活かす 予習：英語の歌の選択</p> <p>9 English Songs for Kids② (6月9日) 英語の歌決定</p>

	<p>レッスンプランの作成 具体的にレッスンの台本を作成開始 英語の歌で使用する教材の作成 英語のうたを査定→内容理解</p> <p>学習課題 復習：レッスン台本作成&教材づくり 予習：レッスン台本作成&練習</p> <p>10 English Songs for Kids③ (6月16日) 英語の歌レッスンリハーサル 英語の歌で使用する教材の作成</p> <p>学習課題 復習：レッスンリハーサル 予習：レッスン台本作成&練習</p> <p>11 English Songs for Kids④&英語絵本の選択 (6月23日) 英語の歌レッスン発表 Peer Evaluation (うたの内容、レッスン構成、声の大きさ、プレゼンの態度、長さ) 次回プロジェクト「英語絵本翻訳」の絵本選択</p> <p>学習課題 復習：英語の歌レッスンで評価された内容について。 予習：絵本選択</p> <p>12 英語絵本翻訳プロジェクト① (6月30日) 英語絵本の査定、決定</p> <p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業</p> <p>13 英語絵本翻訳プロジェクト② (7月7日) 英語絵本の翻訳作業</p> <p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業</p> <p>14 英語絵本翻訳プロジェクト③ (7月14日) 英語絵本の翻訳提出 "Marley&Me"視聴、映画英語での聞き取り</p> <p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業&提出準備</p> <p>15 英語絵本翻訳プロジェクト④ (7月21日) 英語絵本の翻訳提出 "Marley&Me"視聴、映画英語での聞き取り</p> <p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業&提出準備</p> <p>16 予備日 (7月28日) なし</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>1. Students will make and teach using flash cards. 2. Students will practice reading children's books. 3. Students will make their own learning materials. 4. Students will learn various English learning songs. 5. Students will practice and teach an English song to their peers.</p> <p>Due to the interactive nature of the course, regular attendance and active participation are required. Grades will be based on attendance, participation, peer-teaching, peer-evaluations and a term project.</p> <p>Classroom Engagement (20%), Song Teaching (20%), Flashcards (20%), Book Reading (20%) Handmade learning materials (20%).</p>
科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：なし 担当教員が適宜資料、プリントを配布する。 参考書：保育系テキスト、子どもの遊びに関する書籍、インターネット等。授業内容に応じ各自が積極的に利用することが望まれる。</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	<p>Feel free to visit me in my office anytime I am not in class or a meeting. Wednesday 10:50 - 12:20, Wednesday 1:10-4:20, Thursday 10:50 - 12:20, Thursday 1:20-4:20</p>
備考・メッセージ	<p>授業の事前準備はもとより、授業への積極的な参加。プレゼン作成、準備、発表を積極的な姿勢で行うこと。辞書は必携。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
講師 小浦康平 12			

講義概要	<p>①パソコンの各種設定方法などを身につける</p> <p>②インターネットを使用するうえで必要な社会ルールやマナー、著作権について理解する。ホームページ閲覧や検索方法などを身につける</p> <p>③Wordを使い、正確かつスピーディーな文書作成が行えるよう、基本操作を学習する 保育現場に必要な園だよりを作成する</p> <p>④Excelを使い、計算式や関数の組み立て、表の装飾やグラフの作成を学習する 行事カレンダーや出席簿を作成できるようになる</p> <p>⑤PowerPointを使い、プレゼンテーションの仕方および注意点等を学習する 電子絵本などを作成し発表できるようになる</p>
授業計画	<p>1 コンピュータの基礎知識 パソコン基本操作の復習、各種設定、ファイル保存、タッチタイピング、長文入力 学習課題 復習：パソコンの基本操作を復習したあと、大学内でのファイル保存場所の確認や、ホームポジションを意識したタッチタイピングの練習を行う</p> <p>2 文書作成（1） Wordによるビジネス文書の作成（あいさつ文の挿入、文字の装飾、書式設定、拡張書式設定） 学習課題 復習：タッチタイピングを継続的に練習しながら、中央揃えやインデントなどの文字配置や飾りつけの練習を行う</p> <p>3 文書作成（2） Wordによる表枠作成（表の挿入、列の分割・結合、罫線の装飾） 学習課題 復習：表挿入や編集を行うボタンの位置および完成例をもとにした表枠の練習課題を行う</p> <p>4 文書作成（3） 表枠を含んだビジネス文書の作成演習 学習課題 復習：完成例をもとにしたビジネス文書作成の練習課題を行う</p> <p>5 文書作成（4） Wordによる図形の操作（図形の基本操作、クリップアート、オートシェイプ、写真） 課題（園だより）の作成準備 学習課題 復習：図形の拡大縮小・移動などの基本操作の確認と、図形を含む練習課題を行う</p> <p>6 Wordのまとめ 総復習・課題作成（園だより） 学習課題 復習：レイアウトを整え、イラストや表枠を入れた見やすく楽しい園だよりを完成させる</p> <p>7 Excel操作（1） 表作成（データ入力の基礎、オートフィル、セルの書式設定） 学習課題 復習：効率の良い範囲選択や曜日などの自動入力など、テキストを見直して例題を解く</p> <p>8 Excel操作（2） 計算式（加減乗除）、関数（合計・平均・カウント・最大・最小） 学習課題 復習：計算式の作成と関数の使用（オートSUM）の練習課題を行う</p> <p>9 Excel操作（3） 関数（IF・RANK・COUNTIF）、データの並べ替え 学習課題 復習：目的に応じた関数の使用、住所録などの並べ替えの練習課題を行う</p> <p>10 Excelのまとめ 総復習・課題作成（出席簿） 学習課題 復習：適切な関数を活用し、レイアウトを整えた見やすい行事カレンダーや出席簿の作成を行う</p>

	<p>1 1 情報モラルおよびインターネットの活用 インターネット社会のルール・マナー、著作権の保護、情報検索方法 学習課題 復習：インターネットを活用する際の危険な行為を再度認識し、ネット活用を行う</p> <p>1 2 PowerPointの基礎（1） スライド作成、テキスト・図の挿入、アニメーションの設定 学習課題 復習：文字や図を活用したスライド作成の練習課題を行う</p> <p>1 3 PowerPointの基礎（1） スライドショー操作および発表の注意点、印刷・配布資料の作成 電子絵本作りの課題内容説明、準備 学習課題 復習：電子絵本の構成を考える</p> <p>1 4 PowerPointのまとめ 課題作成（電子絵本） 学習課題 復習：電子絵本作りに必要な素材集めや、資料作成を行う</p> <p>1 5 PowerPointのまとめ・発表 電子絵本のプレゼンテーション発表 学習課題 復習：効果的な手法でのプレゼンテーション発表を振り返り、改善点を考える</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①パソコンの一般的な基本操作を理解している ②情報モラルの基礎的な知識を理解している ③Wordを使い、イラストや写真を用いた園だよりの作成ができる ④Excelを使い、行事カレンダーや出席簿など、実践的に使いこなすことができる ⑤PowerPointを使い、電子絵本などを作成し、適切に発表を行うことができる</p> <p>積み上げ式の授業内容となるため、授業ごとに提出する課題作成を重視するとともに、最終課題や発表の結果を加味して総合的に評価する</p> <p>文書作成 (Word) の課題：40% 表計算 (Excel) の課題：40% プレゼンテーション (PowerPoint) の課題：20%</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	毎回、課題資料を配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業期間中の平日の昼休みや放課後など
備考・メッセージ	

講義科目名称： 幼児国語

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
今年度開講せず			

講義概要	言語の本質は「音（オン）と意味」であるが、この「言語とはどのようなものか」ということを、5歳程度の幼児にわかりやすく教えることができるようにする。さらに、「文字」の本質は何かということを読んで「音」「意味」「文字」の関係を理解し、それらを発展させて「文」と「単語」の関係へと理解を深めていくことを目的とする。
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 言語の本質理解①</p> <p>3 言語の本質理解②</p> <p>4 言語の本質理解③</p> <p>5 言語現象の観察方法①</p> <p>6 言語現象の観察方法②</p> <p>7 幼児への言語指導①</p> <p>8 幼児への言語指導②</p> <p>9 幼児への言語指導③</p> <p>10 幼児への言語指導④</p> <p>11 言葉が広げる子どもの世界①</p> <p>12 言葉が広げる子どもの世界②</p> <p>13 感情体験と言葉（言葉にならないコトバ）</p> <p>14 小学校との連携</p> <p>15 まとめ</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自分がどのように言語を使っているかを理解することができる</p> <p>②日本語の音声・意味についての言語現象を考察することができる</p> <p>③「文」と「単語」の関係を理解することができる</p> <p>④年齢に応じた言語獲得能力を説明することができる</p> <p>課題レポート（50%）、ディスカッションの内容（50%）を総合して評価する。</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	教科書：適宜資料を配布する 参考書：特に指定しない
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
講師 大久保敬次 18			

講義概要	幼児算数の学習全体を通して、講義中心の中に便宜演習を取り入れながら、教材研究の進め方、遊びの中での算数的活動の進め方等、具体的な事例を参考にしながら授業を展開していく。特に、小学校現場の指導の様子や模擬授業を活用しながら、自己表現力、資料活用力、問題解決力を学ぶ。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業のねらいと課題設定、評価について</p> <p>2 幼児期の発達（1） 幼児期の知的発達の特徴（1）</p> <p>3 幼児期の発達（2） 幼児期の知的発達の特徴（2）</p> <p>4 教育要領・指導要領の研究（1） 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領の研究（1）</p> <p>5 教育要領・指導要領の研究（2） 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領の研究（2）</p> <p>6 幼稚園と小学校（1） 算数的教材の系統と指導内容の研究（1）</p> <p>7 幼稚園と小学校（2） 算数的教材の系統と指導内容の研究（2）</p> <p>8 幼稚園と小学校（3） 算数的教材の系統と指導内容の研究（3）</p> <p>9 指導法の研究（1） 授業参観による授業の研究</p> <p>10 指導法の研究（2） 事前学習と授業参観との比較による授業の研究</p> <p>11 指導法の研究（3） 模擬授業へ向けて教材研究、指導案作成（1）</p> <p>12 指導法の研究（4） 模擬授業へ向けて教材研究、指導案作成（2）</p> <p>13 指導法の研究（5） 模擬授業と保育所・幼稚園での生かし方発表準備</p> <p>14 研究発表（1） 保育所・幼稚園での生かし方発表</p> <p>15 研究発表（2） 研究のまとめと研究発表</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児期の知的発達の特徴を理解できる。</p> <p>②幼稚園教育要領や保育所保育指針と小学校学習指導要領との関連について研究する能力を習得する。</p> <p>③幼児期の知的発達と算数的教材の系統と指導内容を理解できる。</p> <p>④算数的活動と遊びの関連を理解できる。</p> <p>⑤模擬授業と課題研究、小研究会の運営を進めることができる。</p> <p>・授業態度、実習・実技の態度、課題レポートの内容や提出状況等で総合的に評価する。</p> <p>・模擬授業等授業でのテーマに応じた内容でレポートで評価する</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：必要に応じて講義用のテキストを作成する。</p> <p>参考書：『幼児期から児童期への教育』 国立教育政策研究所・教育課程研究センター ひかりのくに 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド社 『3法令改訂（定）の要点とこれからの保育』 チャイルド本社 『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省</p>
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	・講義内容の小テストを実施し定着を図る。 【準備学習（自主学習）】 課題を設定し、準備学習等自主的な学習を促していく。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
講師 松井由美子 17			
実務教員			

講義概要	<p>①乳幼児の発達めやすを知る。親子の触れ合いについて深める。(施設での見学実習)</p> <p>②自分について知る。他者と自己を見つめる機会を深める。自己解放できるゲーム等を体験する。</p> <p>③「あそび」の基本要素について知る。「あそび」が育む「五感力」の研究を深める。「食育」の体験にもつなげる。</p> <p>④「あそび」の道筋について知る。「あそび」の接続について深める。考えた「あそび」を体験する。</p> <p>⑤乳幼児施設と小学校施設等の違いを知る。保幼小連携について考えて見る。</p>
授業計画	<p>1 生活科とは 求められる経験と生命の尊重</p> <p>2 乳幼児の成長 主体的な体験の場からの学び 昆虫飼育</p> <p>3 乳幼児の成長 主体的な体験の場からの学び (ツインズちゃん 子育て広場等) 昆虫飼育</p> <p>4 表現の過程 描くことは運動機能の発達と自己表現 昆虫飼育</p> <p>5 表現の過程 イメージの共有から共同的な遊びへ 昆虫飼育</p> <p>6 表現の過程 イメージの共有から共同的な遊びへ 昆虫飼育</p> <p>7 あそびの基本要素 室内あそび ヒヤシンス水栽培 昆虫飼育</p> <p>8 あそびの基本要素 戸外あそび ヒヤシンス水栽培 昆虫飼育</p> <p>9 あそびの基本要素 (学び) 遊びが育む問題解決力 ヒヤシンス水栽培</p> <p>10 あそびの道筋 感じる、気付き ヒヤシンス水栽培</p> <p>11 あそびの道筋 考える、試す ヒヤシンス水栽培</p> <p>12 あそびの道筋 経験を重ねる、納得する ヒヤシンス水栽培</p> <p>13 あそびの道筋 経験を重ねる、納得する (食育から) ヒヤシンス水栽培</p> <p>14 小学校との連携 保幼小連携のプログラムを経験する ヒヤシンス水栽培</p> <p>15 生活科とは 求められる経験と生命の尊重 (評価と考察)</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①乳幼児の心と身体の成長の発達を理解する。</p> <p>②自分と家族、自分と他者について考えて関わる事ができる。</p> <p>③自然とふれ合う中で感知する面白さや五感力を高めることを理解する。</p> <p>④気付きを深める内容を通して、乳幼児期に知的探究心を育み教育方法を試行することができる。</p> <p>⑤「学びの芽生え」が保幼小連携につながる事を習得する。</p> <p>課題レポート (50%)、ディスカッションの内容 (50%) を総合して評価する。</p>
科目 (教職課程用)	

教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	参考書：保幼小連携カリキュラム（佐世保市） 遊びは人間行動のプラモデル？ 子育て情報誌・ふれあい（佐世保市） 小川純正
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】次回の講義内容を予習し、保育実践における自らの疑問や課題を明らかにしておくこと

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員			
准教授 友廣憲子 6			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 移調を学習し、童謡曲を子どもが歌いやすいハ長調、ニ長調に書き換える学習について理解する。 ② 童謡曲の弾き歌いについて学習する。 ③ 西洋音楽史について学び、時代に応じた作曲者の曲を演奏する。 ④ 講義と個人レッスンで学習していく。 ⑤ リズムについてを学ぶ。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 音楽研究 I の概要説明 学習課題 復習：本日の授業について振り返る 予習：課題に取り組む</p> <p>2回目 西洋音楽史と（童謡の弾き歌い） 学習課題 復習：西洋音楽史について振り返る 予習：課題に取り組む</p> <p>3回目 西洋音楽史と（童謡の弾き歌い） 学習課題 復習：授業の振り返りを行う 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>4回目 移調とリズム打ちと（童謡の弾き歌い） 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>5回目 移調とリズム打ちと（童謡の弾き歌い） 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題の練習をする。</p> <p>6回目 時代に即した作曲家の生涯と選曲 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>7回目 童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>8回目 童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>9回目 移調と童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>10回目 移調と童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>11回目 今までの学習の振り返り 弾きあい会の実施（リズム打ちの成果を確認） 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>12回目 童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>13回目 童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>14回目 童謡曲、時代別選曲のレッスン 学習課題 復習：授業の振り返りをする。 予習：課題曲の練習</p> <p>15回目 移調と童謡と課題曲の成果発表 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<ul style="list-style-type: none"> ① 移調した童謡曲を楽譜におこし、移調した調で演奏できるようになる。 ② 童謡曲7曲の演奏ができるようになる。 ③ 童謡曲7曲の弾き歌いが出来るようになる。 ④ 時代に応じた作曲者の曲を演奏することができるようになる ⑤ リズム譜をみて求められるリズムをたたくことができる。

	<p>移調、童謡課題曲、時代別ピアノ曲、授業に対する取り組みを総合評価とする。</p> <p>移調とリズム打ち 20% 童謡曲 30% 時代別選曲 50%</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	テキスト:ジャンル別の曲については必要に応じてプリントを使用する。
履修条件	
履修上の注意	毎週、与えられた課題を練習してくること
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	毎日1時間練習を行いましょう。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員			
准教授 友廣憲子 6			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 連弾を行いアンサンブルを学習する。 ② 童謡曲の弾き歌いを学習する。 ③ 講義と個人レッスンで学習していく。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 音楽研究Ⅱの概要説明 学習課題 復習：本日の講義を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>2回目 童謡曲と連弾の選曲 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>3回目 童謡曲と連弾 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>4回目 童謡曲と連弾 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>5回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>6回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>7回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>8回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>9回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>10回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>11回目 今までの学習の振り返り 弾きあい会の実施 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>12回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>13回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>14回目 連弾と童謡 学習課題 復習：授業内容を振り返る 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>15回目 連弾と童謡曲の成果発表 学習課題 復習：授業内容を振り返る。</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題に真摯に取り組むことができる。 ② ピアノ連弾で2曲演奏することができる。 ③ 童謡曲の5曲を弾き歌いすることができる。 ④ 童謡曲5曲を演奏することができる。 ⑤ ピアノ連弾・独奏を通して、技術力を向上することができる。 <p>連弾、童謡弾き歌い、参加意欲について総合評価とする。</p> <p>連弾60%、童謡30%、参加意欲10%</p>

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	必要に応じてプリントを使用する。
履修条件	音楽研究Ⅰを履修していること
履修上の注意	出された課題については練習をしてくること。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦 3			

講義概要	子ども達が登場する理想的な空間を想像しながら、幼児教育への夢を構築し、これをテーマとしながら紙粘土などを材料に箱庭を制作していく。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで、表現の内容や方法のあり方を確かめていく。また、この作品発表を行う。
授業計画	<p>1 オリエンテーションと制作の目的について 箱庭の制作についての概要 学習課題 予習：学科時代の図画工作について振り返りをおこなう 復習：表現について自己目標を立てる</p> <p>2 箱庭の中の物語性について 箱庭の中に込めようとする理想的な空間の構想 学習課題 予習：箱庭を用いた表現について思いをめぐらす 復習：現実ではない夢の世界を発想する</p> <p>3 表現内容と自分の子ども観 子どもたちが登場する空間の中に盛り込む内容を考える 学習課題 予習：自分の保育観・子ども観について思いをめぐらす 復習：子どもにどうあつて欲しいか、思いをめぐらす</p> <p>4 箱庭のアイディアスケッチ（全体） 箱庭全体の構想を考える 学習課題 予習：箱庭の全体的な場面設定を想像する 復習：ここに展開する子どもたちの様子を想像する</p> <p>5 箱庭のアイディアスケッチ（部分） 箱庭に登場する人物等のディテールを考える 学習課題 予習：具体的な子どもたちの表情や動きを想像する 復習：制作の表現方法について構想する</p> <p>6 お互いのアイディアスケッチについてのディスカッション 自分の表現の意図を伝え他者からの意見を聞く 学習課題 予習：自分のアイディアスケッチを客観的に見直す 復習：他者の意見の意図やイメージを振り返る</p> <p>7 アイディアスケッチの修正 他者からの意見を踏まえスケッチを修正する 学習課題 予習：他者の意見も参考にした修正案を模索する 復習：表現への意欲を高める</p> <p>8 粘土成形と着彩① 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>9 粘土成形と着彩② 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>10 粘土成形と着彩③ 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>11 粘土成形と着彩④ 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>12 箱庭の空間制作① 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>13 箱庭の空間制作② 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>14 箱庭の空間制作③ 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこなう</p> <p>15 箱庭の展示発表 子ども観を詩にしたため、作品に添えて展示発表をおこなう 学習課題 予習：詩の構想を考える 復習：子ども観を伝えることの大切さを考える</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児と接していく豊かな情操を獲得している ②基本的な造形（工作）技術と造形（工作）原理を習得している ③自らの保育観を想像的かつ創造的に具現化（立体化）することができる ④保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる ⑤保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる</p> <p>授業回中または以後の評価期間に作品提出を義務付け、この作品の成果と学修の取り組みを加味し評価をおこなう。</p> <p>課題作品（80%）、学習の取り組み（20%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	選択
担当教員			
教授 陣内敦 3			

講義概要	市販の絵本の中に込められているメッセージ内容を分析した上で、自らが子ども達へ伝えたい内容を構築しながら、お話の創作から画面制作へと進む。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで表現方法のあり方を確かめていく。また、この読み語り発表を行う。
授業計画	<p>1 オリエンテーションと制作の目的について 絵本の創作についての概説と市販の絵本の紹介 学習課題 予習：自分が好きな絵本を持ってくる 復習：絵本の良さについて考える</p> <p>2 絵本の与えるメッセージ性について お話の中に込められているメッセージ内容の構想 学習課題 予習：自分や級友の紹介した絵本が伝えるメッセージ性について考える 復習：自分が絵本で伝えたいメッセージを考える</p> <p>3 メッセージ内容の構想① ストーリーの展開を考え、代表的な場面のラフスケッチを作る 学習課題 予習：自分が作りたい絵本の概要を考える 復習：自分の作ったラフスケッチとメッセージ内容の関係を確かめる</p> <p>4 メッセージ内容の構想② お互いのストーリーについてのプレゼンとディスカッション 学習課題 予習：自分のラフスケッチのプレゼンを考える 復習：級友からのアドバイス等を生かしながら構想を進める</p> <p>5 メッセージ内容の構想③ お話のコマ割り 学習課題 予習：具体的なお話の展開をイメージする 復習：コマ割りの修正を考える</p> <p>6 メッセージ内容の構想④ コンテ制作とこれについてのディスカッション 学習課題 予習：コマ割りの具体的修正をおこなう 復習：コマ割りを決定する</p> <p>7 各画面のアイディアスケッチ（線描き） ページのつながりを考えながら線描きをする 学習課題 予習：作画のイメージを作り始める 復習：線描きの修正をおこなう</p> <p>8 各画面のアイディアスケッチ（色彩構成） ページのつながりを考えながら色彩構成をする 学習課題 予習：色彩のページ展開を考える 復習：色彩構成の修正をおこなう</p> <p>9 描画技法の工夫 メッセージ内容と絵のタッチを合わせるために描画材料や描画技法を工夫する 学習課題 予習：描画をどのように進めるかイメージしていく 復習：描画材料の吟味をおこなう</p> <p>10 画面制作① 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>11 画面制作② 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>12 画面制作③ 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>13 画面制作④ 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：描画表現の振り返りをおこなう</p> <p>14 お話書き ページごとに文字を入れていく 学習課題 予習：文を画面のどこに入れるか再調整をおこなう 復習：お話を声に出して読む</p> <p>15 絵本の発表 自作品の絵本の読み語りをおこない、声を出しての表現を試みる 学習課題 予習：読み語りの練習をおこなう 復習：絵本の制作について振り返りをおこなう</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児と接していく豊かな情操を獲得する ②基本的な造形（絵画）技術と造形（絵画）原理を習得する ③幼児に伝えたいメッセージ内容を具現化（絵画と言葉によって）することができる ④保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる ⑤保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる</p> <p>授業回中または以後の評価期間に作品提出を義務付け、この作品の成果と学修の取り組みを加味し評価をおこなう。</p> <p>課題作品（80%）、学習の取り組み（20%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
教授 中尾健一郎 4			

講義概要	①子どもの体力と健康の関係、運動能力の発達について理解する ②幼児期運動指針の意義とポイントについて理解する ③運動指導における保育者の援助の在り方について理解する ④運動能力の測定・評価の方法と測定結果の活用方法について理解する ⑤運動遊びを企画する際の留意点について理解する
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方について学び、これまでの運動指導場面での課題を振り返る</p> <p>学習課題 復習：運動指導場面での課題をまとめる 予習：幼児期運動指針について調べる</p> <p>2 幼児期運動指針について 幼児期運動指針の意義、ポイントについて学ぶ</p> <p>学習課題 復習：配布資料を参考に各概念の整理をする 予習：運動発達と運動の指導について調べる</p> <p>3 運動発達と指導の基本について 運動発達と運動指導の基本方針について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：運動発達と運動指導の在り方についてまとめる 予習：進んで運動する環境について調べておく</p> <p>4 「遊びの中で進んで運動をする子どもを育てる」という考え方について 内発的動機を高める環境について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：内発的動機を高める環境についてまとめておく 予習：これまで実践した運動遊びについて振り返っておく</p> <p>5 進んで運動する子どもを育てる保育と援助について① 用具や遊具を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる</p> <p>学習課題 復習：工夫して考えた運動遊びの構成をまとめておく 予習：自然環境を工夫した遊びの構成を考えてみる</p> <p>6 進んで運動する子どもを育てる保育と援助について② 自然環境を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる</p> <p>学習課題 復習：工夫して考えた運動遊びの構成をまとめておく 予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく</p> <p>7 発達を支える多様な活動について① 用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる 予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく</p> <p>8 発達を支える多様な活動について② 用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる 予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく</p> <p>9 発達を支える多様な活動について③ 用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる 予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく</p> <p>10 発達を支える多様な活動について④ 用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる 予習：運動能力検査の方法を調べておく</p> <p>11 幼児運動能力検査の実施・測定方法について MKS運動能力検査の実施・測定方法について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：検査の実施・測定方法のポイントについてまとめる 予習：測定結果の活かし方について考えてみる</p> <p>12 幼児運動能力検査の結果の処理と解釈および日常の保育への活かし方について 結果の処理と解釈の方法と検査結果を日常の保育に活かす方法について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：検査結果を日常の保育に活かす方法についてまとめる 予習：これまで実践した運動遊びをアレンジして考えてみる</p>

	<p>1 3 運動遊びの企画 運動遊びを企画し、指導案を作成する</p> <p>学習課題 復習：指導案に基づいて運動遊びが実施できるようにイメージをもつ 予習：運動遊びの評価のポイント調べておく</p> <p>1 4 運動遊びの発表① 企画した運動遊びを発表し、相互評価する</p> <p>学習課題 復習：自己評価を行い、内容を振り返る 予習：運動遊びの評価のポイント調べておく</p> <p>1 5 運動遊びの発表② 企画した運動遊びを発表し、相互評価する</p> <p>学習課題 復習：自己評価を行い、内容を振り返る 予習：</p>															
授業形態	演習															
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<table border="0"> <tr> <td>評価比率</td> <td>評価の観点</td> <td>評価手段・方法</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度 40%</td> <td>自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td>思考・判断 20%</td> <td>運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>技術・表現 20%</td> <td>運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>知識・理解 20%</td> <td>子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる</td> <td>課題発表</td> </tr> </table>	評価比率	評価の観点	評価手段・方法	関心・意欲・態度 40%	自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる	授業態度	思考・判断 20%	運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる	課題レポート	技術・表現 20%	運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。	課題レポート	知識・理解 20%	子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる	課題発表
評価比率	評価の観点	評価手段・方法														
関心・意欲・態度 40%	自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる	授業態度														
思考・判断 20%	運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる	課題レポート														
技術・表現 20%	運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。	課題レポート														
知識・理解 20%	子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる	課題発表														
科目（教職課程用）																
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等																
教科書・参考書	教科書： 参考書：幼児期における運動発達と運動遊びの指導 杉原 隆・川邊貴子編著 ミネルヴァ書房 幼児期運動指針 文部科学省															
履修条件																
履修上の注意	実技の際は装飾品ははずし運動ができる服装を準備すること															
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける															
備考・メッセージ	普段の保育実践の中で、運動指導に関心を持ち、子どもの様子を観察しておくこと。															

講義科目名称： 体育研究Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	選択
担当教員			
今年度開講せず			

講義概要	様々な運動遊びの基礎的な運動技能やルールなどその特性を理解し、指導計画を作成する。そして、その計画に沿って模擬保育を実践することにより、指導の目的、留意点などを理解する。また、運動遊びを位置づけた行事の企画をしたり、遊具の設置場所や用具の使い方、整備などについても考え、幼児にふさわしい運動を通じた生活環境の整備についても併せて研究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 幼児の豊かな運動生活について 2 運動遊びの指導計画作成上の留意点 3 運動遊びをテーマとした模擬保育の実践と反省会① 4 運動遊びをテーマとした模擬保育の実践と反省会② 5 運動遊びをテーマとした模擬保育の実践と反省会③ 6 運動遊びをテーマとした模擬保育の実践と反省会④ 7 運動遊びをテーマとした模擬保育の実践と反省会⑤ 8 体育的行事の企画・運営上の留意点 9 体育的行事の企画と運営① 10 体育的行事の企画と運営② 11 体育的行事の企画と運営③ 12 体育的行事の企画と運営④ 13 運動遊び環境の整備について①（施設・設備・用具と遊びの関係） 14 運動遊び環境の整備について②（計画的な環境整備について） 15 学修のまとめ
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>体育研究Ⅰを学んだことを発展させて、幼児が生活の中に運動や遊びを位置づけるために必要な環境整備について考える。具体的には、幼児体育の実践を通して、保育の指導内容、指導方法などを研究し、保育の実際場で活発な運動遊びを展開させることのできる知識や技術の習得を目指す。</p> <p>課題への取組およびレポートにより総合的に評価する</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：とくに指定しない</p> <p>参考書：必要に応じて、資料などを配布する</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修
担当教員			
教授 安部恵美子 1			
担当形態：単独			

講義概要	到達目標①から⑤を達成するための具体的学習内容や討議内容は以下のとおりである。 ①保育現場と保育者の仕事 保育者と子どものかかわりの実態 保護者支援の実態 保育者集団の協働の実態 ②社会の変化と保育発展の関係 明治・大正期の保育者の活躍の様相 高まる保育職への期待 ③わが国の保育政策の特徴 先進国の保育政策動向 少子化克服に寄与する保育政策の特徴 ④子育て支援の場に求められる保育者の資質 新しい保育システムと保育者 保育者資格の高度化への対応 ⑤保育現場の子どもの貧困への対応 保育現場の地域間格差への対応 保育者の待遇改善と専門性の向上
授業計画	<p>1 保育職の意義と役割 教育する主体/世話する主体としての保育者の仕事内容を確認する</p> <p>2 保育職の仕事 1 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ①子どもを保育する</p> <p>3 保育職の仕事 2 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ②保護者の支援</p> <p>4 保育職の仕事 3 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ③園務と保育者集団の協働</p> <p>5 保育職 過去から未来へ 1 社会的保育の誕生と発達 of 必然性派生のプロセス 西欧編</p> <p>6 保育職 過去から未来へ 2 社会的保育の誕生と発達 of 必然性派生のプロセス 日本編</p> <p>7 保育職 過去から未来へ 3 保育の歴史に刻む保育者たち 明治期 (松野クララ 野口幽香 徳永恕ほか)</p> <p>8 保育職 過去から未来へ 4 保育の歴史に刻む保育者たち 大正・昭和期 (倉橋惣三 木戸幡太郎ほか)</p> <p>9 保育制度・保育職の国際比較 1 わが国の子ども・家庭支援に対する政策動向と保育所・幼稚園</p> <p>10 保育制度・保育職の国際比較 2 諸外国の保育制度のあらまし・保育職の地位</p> <p>11 保育職に関連する現在の諸問題 1 新しい保育制度構想と保育者資格の高度化</p> <p>12 保育職に関連する現在の諸問題 2 保育の地域格差の実態把握とその対応 (チーム学校への対応)</p> <p>13 保育職に関連する現在の諸問題 3 子どもの貧困と教育格差の問題への保育者としての対処法 (チーム学校への対応)</p> <p>14 保育者の身分保障とキャリア形成 1 保育者の労働実態 全国調査から</p> <p>15 保育者の身分保障とキャリア形成 2 保育者としてのキャリア形成に関するディスカッション</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①保育職の意義と役割に関する実践的理解を深める</p> <p>②保育制度の発達と保育職の意義・役割の変化の関連を概観する</p> <p>③保育制度や保育者資格に関する国際比較を行う</p> <p>④多様化する現代の保育ニーズに対応する保育者の資質向上を考える</p> <p>⑤保育職のキャリア形成に関する問題点を考察し、討議する</p> <p>授業の4回目、8回目、15回目には講義内容に関するレポートの提出や、その段階までの授業内容に関する理解度の確認を求め、到達目標の達成度を評価します。授業終了後の評価期間には、総合的な評価を実施します。</p>
科目(教職課程用)	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)
教科書・参考書	<p>テキスト：特別に指定しません</p> <p>参考書：『保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友 編 ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 学習の円滑な促進を図るために課題ごとに必要な資料を作成し授業時に配布する。</p>
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修
担当教員			
教授 安部恵美子 1			

講義概要	到達目標①から⑤を達成するための具体的な履修内容は以下のとおりである。 ①ケアの本質 保育の専門性としてのケア ケアの分野ととらえ方 保育の場におけるケア活動の具体 ②子どもの成長を助けるケアの質 子どもの自己実現を助けるケアの質 子どもと保育者が共に育つケアの質 ③OECD12カ国の幼児教育策と「ケア」 入学準備型保育カリキュラム 生活基盤型保育カリキュラム 保幼小連携 ④メイヤロフの「ケアの本質」 ケアの8要素の理解 (知識 リズム変化 忍耐 正直 信頼 謙遜 希望 勇気) ⑤英語論文を読む 英語論文を和訳する 英語論文の内容を理解する
授業計画	1 保育の本質・基礎理論としての「ケア」 保育の専門性としての「ケア」のとらえ方 2 保育と教育、教育とケアの統合 保育の場 (幼稚園 保育所) での教育とケアの統合の様相 3 歴史的視点から見た教育とケアの統合 1 保育制度の現状から (幼稚園教育と保育所保育の連携 小学校教育と保育の連携 認定こども園) 4 歴史的視点から見た教育とケアの統合 2 家庭の子育て支援の現時的課題 5 メイヤロフの「ケアの本質」の解説 文献説明 本理論の卓越性について 6 メイヤロフの「ケアの本質」を読む1 原書の輪読 (英文和訳) Introducion 7 メイヤロフの「ケアの本質」を読む2 原書の輪読 (英文和訳) I-2 The Basic Pattern 8 メイヤロフの「ケアの本質」を読む3 原書の輪読 (英文和訳) I-2 The Basic Pattern 9 メイヤロフの「ケアの本質」を読む4 原書の輪読 (英文和訳) I-3 The Growth of a Person and the The Growth of an Idea 1 0 メイヤロフの「ケアの本質」を読む5 原書の輪読 (英文和訳) I-3 1 1 メイヤロフの「ケアの本質」を読む6 原書の輪読 (英文和訳) II Major Ingredients of Caring 4 Knowing 1 2 メイヤロフの「ケアの本質」を読む7 原書の輪読 (英文和訳) II-5 Alternating Rhythms 6 Patience 1 3 メイヤロフの「ケアの本質」を読む8 原書の輪読 (英文和訳) II-7 Honesty 8 Trust 9 Humility 1 4 メイヤロフの「ケアの本質」を読む9 原書の輪読 (英文和訳) II-1 0 Hope 1 1 Courage 1 5 メイヤロフの「ケアの本質」を読む10 メイヤロフの「ケア」理論から保育の本質を考える
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①保育の本質や基礎概念である「ケア」理論に関する理解を深める ②「教育」と「ケア」の共通項に関する考察を深める ③「教育」と「ケア」の統合に関する国際的・歴史的観点を概観する ④他者の成長を助ける「ケア」の要素を理解する ⑤外国の保育思想書の原典購読を通じて語学力を養う 授業の6回目から14回目は、英文を購読・和訳をしながら筆者の意図を考察します。次回の購読範囲については毎回予習を課し、授業中の和訳・応答の状況をもとに理解度の確認を行い到達目標の達成度を評価します。さらに授業終了後には、和訳文書の提出を求めて評価期間に総合的な評価を実施します。
科目 (教職課程用)	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科書・参考書	テキスト：「ケアの本質」 ミルトン・メイヤロフ 著 田村 真 向野宣之 訳 ゆみ出版 「On Caring」 Milton Mayeroff Harper Perenninal 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

講義科目名称：特別支援教育特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
教授 川原ゆかり 2			

講義概要	<p>①障害児支援の動向について知識を得る 障害児支援の基礎知識を学ぶ 障害児支援としての福祉制度について知る</p> <p>②特別支援教育の背景について理解する 特別支援教育について学ぶ 特別支援教育の取り組みの実際を修得する</p> <p>③障害児のアセスメント法を体験する アセスメントの実際を学ぶ アセスメントの活かし方・グループ討議する</p> <p>④知的障害の理解を深める 広汎性発達障害の理解と支援方法について学ぶ 学習障害の理解と支援法を学ぶ</p> <p>⑤障害を持つ家族の心理について理解する 障害児と家族について見識を高める 障害児の親の会など社会活動に参加する</p>
授業計画	<p>1 障害児の現状と課題（障害児を取り巻く社会環境や福祉制度）</p> <p>2 障害児の基礎知識</p> <p>3 特別支援教育の背景</p> <p>4 特別支援対象児の理解</p> <p>5 特別支援対象児の障害の原因・病理</p> <p>6 障害児の理解と支援方法</p> <p>7 発達障害の早期発見と早期対応・早期療育の実際</p> <p>8 障害児のアセスメント Part I</p> <p>9 障害児のアセスメント Part II</p> <p>10 ADHDの理解と対応</p> <p>11 LDの理解と対応</p> <p>12 アスペルガー障害の理解と対応</p> <p>13 障害児の治療的アプローチ</p> <p>14 発達障害児とSST</p> <p>15 発達障害児と家族</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①障害児を取り巻く現状と課題について学び、保育者としての使命感や責任感を再認識する</p> <p>②特別支援教育の背景と動向について知り、保育者の役割について考察することにより、社会的な役割についての意識の向上を図ることができる</p> <p>③障害児の理解（アセスメント）法を学び、発達診断のスキルを身につけることができる</p> <p>④障害児の理解と支援法を修得するために、発達障害児について具体的に学び、見識を深めることができる</p> <p>⑤障害児と家族について具体的な事例を通して理解を深め、支援することができるようになる</p> <p>ディスカッション（20%） および筆記試験（80%）を総合して評価する</p>
科目（教職課程用）	教育の基礎理論に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教科書・参考書	<p>テキスト：『障害児の理解と支援』 駿河台出版社</p> <p>参考書：インターネットや新聞報道などを活用し、適宜、タイムリーな最新の資料を活用</p>

履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応しますので、気軽に訪ねてきてください
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 学年	2 単位	必修
担当教員			
講師 座間味愛理 10			
担当形態：単独			

講義概要	<p>ある幼児が大人の真似をして初めてガムを口に放り込んだ。次の瞬間、急に「寒い寒い！クーラー止めて！」と訴えた。ガムはクールミント味だったのだ。私達は子どもの“初めて”に遭遇する度に、子どもらしい世界に感動し、人間について新たな理解を得ることができる。</p> <p>本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>具体的には発達心理学、教育心理学、学習理論の視点を用いて子どもの行動や特性を理解し、子ども達の世界を広げる保育者の役割について理解を深めることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 早期教育についてのあなたの考えは？ 学習課題 復習：心理学の中での学習に関する考え方・早期教育とは 予習：「知能」の定義と知能検査</p> <p>第2回 学習行動の基礎 学習課題 復習：「学習」の定義と基礎理論 予習：運動発達の復習</p> <p>第3回 姿勢と学習 学習課題 復習：運動発達と学習、母親の膝に抱かれる効果 予習：あなたの好きな教科とその理由について整理する</p> <p>第4回 学びの動機づけ 先生を好きになると学習効果がある？ 学習課題 復習：人間関係の発達と学習 予習：「自己」「情動調整」の定義</p> <p>第5回 自分に対する認知の発達 年齢とともに自己評価は高くなる？ 学習課題 復習：自己鏡映認知、自己意識の発達、自己評価の発達 予習：“期待はずれのプレゼント”の復習</p> <p>第6回 他者の心の理解—乳幼児から青年期まで— 学習課題 復習：「心の理論」の発達 予習：「ソーシャルスキルトレーニング」の下調べ</p> <p>第7回 集団療法①幼児へのソーシャルスキルトレーニングを体験しよう 学習課題 復習：ソーシャルスキルトレーニングの適用と効果 予習：自分の行動基準が、何によって形成されてきたか内省し整理する</p> <p>第8回 パーソナリティの発達 学習課題 復習：行動基準の内面化 予習：インターシップ先の保育の評価方法について整理する</p> <p>第9回 教育・保育における評価 学習課題 復習：教育における測定 予習：発達障害の概念と範囲について復習</p> <p>第10回 発達障害のある子どもの教育・保育 学習課題 復習：発達・適応の障がいと教育 予習：教科の心理と指導</p> <p>第11回 保育のなかで生かす教育心理学 学習課題 復習：学習指導とその方法 予習：インターシップ先での年長児の一年の目標の整理</p> <p>第12回 就学に向けて（幼・保・小連携） 学習課題 復習：保育・教育現場に氾濫する今日的課題と連携 予習：家庭全体に支援が必要な場合について整理する</p> <p>第13回 家族ぐるみの教育的支援 学習課題 復習：リスク家庭と教育相談支援 予習：動機づけの発達</p> <p>第14回 子どもをめぐる教育的問題 学習課題 復習：子どもの貧困と教育の格差 予習：これまでの授業のまとめ</p> <p>第15回 集団療法②年齢期児童に対するソーシャルスキルトレーニングを体験しよう 学習課題 復習：ソーシャルスキルトレーニングの適用と効果</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①子どもの心身の発達に対する基礎理論、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>②乳幼児期から青年期にかけての運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解している。</p> <p>③子どもの学習過程について、学習形態、学習理論の基礎的知識を概説できる。</p> <p>④子どもの主体的な学習を支える保育者の関わりについて具体的な例を挙げて説明できる。</p> <p>授業中に発表に対する取り組み、内容、議論の参加状況を総合的に評価する。</p> <p>試験結果（70%）、授業内ディスカッション（30%）で総合的に評価する。</p>
科目（教職課程	教育の基礎的理解に関する科目

用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科書・参考書	『保育に生かす教育心理学』伊藤健次 編 2008 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修
担当教員			
講師 朝野卓也 14			
担当形態：単独	実務教員		

講義概要	これまで学んだ教育・保育に関する知識が実践の場である幼稚園・保育所・認定こども園等でどのように生かされているのか教育・保育の制度や経営の視点によって再考し、施設見学やヒアリングを織り込みながら教育・保育現場における学校・保育経営について考察する。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 保育経営とは 今後の授業の方向付け（基礎的知識の理解と現場視察等による理解） 学習課題 復習：保育経営に関連する学習内容の確認 予習：幼稚園・保育所の制度の確認</p> <p>2 保育制度の確認 幼稚園と保育所の存在意義と役割の再考 学習課題 復習：幼稚園・保育所制度の課題の確認 予習：保育経営に関する問題の抽出</p> <p>3 保育経営の視点1 園経営との方針と経営計画 学習課題 復習：保育経営に関する課題の確認 予習：クラス運営に関する問題の抽出</p> <p>4 保育経営の視点2 クラス運営と園務のかかわり 学習課題 復習：クラス運営と園務に関する課題の確認 予習：保育課題の構成と指導計画との関連</p> <p>5 保育経営の視点3 保育課程の編成と実践 学習課題 復習：保育課程の編成と実践に関する課題の確認 予習：保育制度の変遷に関する問題の抽出</p> <p>6 保育制度の変遷1 制度改革と施策の展開（諸外国の教育事情を含む） 学習課題 復習：制度改革と施策の展開に関する課題の確認 予習：認定こども園制度に関する問題の抽出</p> <p>7 保育制度の変遷2 認定こども園制度 学習課題 復習：認定こども園制度に関する課題の確認 予習：子ども・子育て支援制度に関する問題の抽出</p> <p>8 保育制度の変遷3 子ども・子育て支援制度 学習課題 復習：子ども・子育て支援制度に関する課題の確認 予習：幼稚園の学校経営に関する問題の抽出</p> <p>9 施設見学1（幼稚園） 幼稚園の園経営、教育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察 学習課題 復習：幼稚園の学校経営に関する課題の確認 予習：保育所の保育経営に関する問題の抽出</p> <p>10 施設見学2（保育所） 保育所の園経営、保育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察 学習課題 復習：保育所の保育経営に関する課題の確認 予習：認定こども園の教育・保育経営に関する問題の抽出</p> <p>11 施設見学3（認定こども園） 認定こども園経営、保育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察 学習課題 復習：認定こども園の教育・保育経営に関する課題の確認 予習：幼保小連携の問題抽出</p> <p>12 施設見学4（小学校） 小学校の学校経営、教育活動の流れ、学級経営、安全対応に関する視察 学習課題 復習：小学校の学校経営に関する課題の確認 予習：子育て支援に関する問題の抽出</p> <p>13 ヒアリング1（子育て支援サークル代表及び保護者） 地域や関連団体がおこなう子育て支援の実際について 学習課題 復習：子育て支援に関する課題の確認 予習：行政がおこなう子育て支援に関する問題の抽出</p> <p>14 ヒアリング2（行政（県又は市）担当者） 行政がおこなう子育て支援の実際について 学習課題 復習：行政がおこなう子育て支援に関する課題の確認 予習：子育て環境と地域連携に関する問題の抽出</p> <p>15 学修のまとめ 保育経営の総括 子育て環境の変化と家庭、地域社会との連携を踏まえて 学習課題 復習：子育て環境と地域連携に関する課題の確認</p>
授業形態	講義

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①職業人である保育者として身につけておくべき専門知識を理解する ②保育施設の組織人として求められる素養を理解する ③成熟社会の進展を背景にして少子化が急激に進む今日、複雑多様化する子育て環境のあるべき姿を考察する ④同じく、保育施設の存在意義について考察する ⑤同じく、家庭・地域社会との連携を考察する レポートの内容、研究意欲等で評価を行う。
科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教科書・参考書	テキスト：教員が準備 参考書：①『あらゆる学問は保育につながる』 秋田喜代美 東京大学出版会 ②『保育現場の人間関係対処法』 砂上史子 中央法規 ③『最新保育資料集2019』 森上史朗 ミネルヴァ書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
准教授 吉田美恵子 7			

講義概要	<p>幼児の発達や興味・関心、生活の流れへの理解を深めながら、幼児が充実感をもって行動できるようなカリキュラム作成をおこない、実践事例との考察や評価に基づき再構成していく過程を学習する。幼児期の終わりまでに育って欲しいこどもの姿を踏まえ、保育の全体的な計画を作成していく中で、発達の連続性や保育者としての役割・責務を把握していく。</p>
授業計画	<p>1回 教育課程の変遷「幼稚園」 「恩物」中心の保育～「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 学習課題 復習：資料を熟読 幼稚園教育要領改訂の内容を確認 予習：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解く</p> <p>2回 保育課程・保育の全体の計画への変遷「保育所」 託児所の始まり～「保育所保育指針」告示化～平成29年度改訂・30年施行へ 学習課題 復習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の内容を確認 予習：保・幼・小連携について調べる</p> <p>3回 アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム（保・幼・小連携） 保育活動全体に於いて育みたい資質能力を理解し、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を踏まえ小学校との接続やスタートカリキュラムとの関連を学ぶ 学習課題 復習：幼児教育を行う施設として共有すべき事項を理解する 予習：保育の全体の計画の構成を理解する</p> <p>4回 保育の全体の計画の編成の基本 指導計画の位置付けと構成 年間指導計画から日案までの流れと内容 発表含め理解を深める 学習課題 復習：保育の全体を見通した計画から日案までの流れを確実に理解する 予習：先輩が作成した保育課程を読む</p> <p>5回 教育（保育）課程から指導計画へ 編成の手順・作成例（サンプル）考察 学習課題 復習：教育・保育理念、保育方針、保育目標について 長期の指導計画（年間指導計画） 予習：1年次のインターンシップ記録からのねらいの設定を整理する</p> <p>6回 カリキュラム編成の実際 短期の指導計画（インターンシップ記録からの考察）週案・日案 学習課題 復習：期案・月案の確認 予習：期案・月案から週案・日案へ</p> <p>7回 カリキュラム編成の実際 保育の全体の計画作成に於いて、幼児期のおわりまでに育って欲しい姿を踏まえて、担当の乳幼児の年齢や特徴をプレゼンする 学習課題 復習：幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を理解し、担当年齢児の発達過程を理解する 予習：各領域のねらいについて把握する</p> <p>8回 保育の全体の計画作成（健康） 全体の計画における担当年齢児の領域（健康）の内容について各自パソコン入力を行い、電子黒板で各年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：健康領域のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：人間関係の内容について各自の担当年齢の具体的な姿を抽出しておく</p> <p>9回 保育の全体の計画作成（人間関係） 全体の計画における担当年齢児の領域（人間関係）の内容について各自パソコン入力を行い、電子黒板で各年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：人間関係領域のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：環境の内容について各自の担当年齢の具体的な姿を抽出しておく</p> <p>10回 保育の全体の計画作成（環境） 全体の計画における担当年齢児の領域（環境）の内容について各自パソコン入力を行い、電子黒板で各年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：環境領域のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：言葉の内容について各自の担当年齢の具体的な姿を抽出しておく</p> <p>11回 保育の全体の計画作成（言葉） 全体の計画における担当年齢児の領域（言葉）の内容について各自パソコン入力を行い、電子黒板で各年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：言葉領域のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：表現の内容について各自の担当年齢の具体的な姿を抽出しておく</p> <p>12回 保育の全体の計画作成（表現） 全体の計画における担当年齢児の領域（表現）の内容について各自パソコン入力を行い、電子</p>

	<p>黒板で各 年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：表現領域のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：養護の内容について各自の担当年齢の具体的な姿を抽出しておく</p> <p>13回 保育の全体の計画作成（養護） 全体の計画における担当年齢児の養護（生命の保持・情緒の安定）の内容について各自パソコン入力を行い、電子黒板で各年齢の育ちや発達の考察を行い加筆、修正する 学習課題 復習：養護のねらいにそって発達過程が記入されているのを確認する 予習：担当年齢児の発達やねらいを踏まえ、日案を作成する ・チェックシート</p> <p>14回 模擬保育と反省・評価 こどもの育ちを確かなものにする、創意工夫された指導計画立案と実践 反省・評価による指導計画改善 学習課題 復習：部分指導案修正・チェックシートからの自己課題 予習：インターンシップ記録を整理しPDCAサイクルを考える</p> <p>15回 評価の意義と方法 計画 ⇄ 実践 ⇄ 反省・評価 ⇄ 改善 の循環性を持って保育の質を向上する 各自のインターンシップ体験からのPDCAサイクルを発表する 学習課題 復習：保育の全体の計画完成と確認チェック 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①教育・保育課程の変遷を理解する ②教育・保育課程の構成を理解する ③指導計画編成の手順を理解し作成することができる ④幼児期の終わりまでに育って欲しいこどもの姿を踏まえ、こどもの発達を見通したカリキュラムの作成ができる ⑤評価の意義と方法を理解し、カリキュラムを改善することができる</p> <p>課題についての取り組みの姿勢・意欲、実践を踏まえたこどもの発達や育ちへの理解について授業内のレポートにより評価する</p> <p>授業内レポート（20%） 発表内容（10%） 保育の全体的な計画作成（70%）</p>
科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する 参考書：『対話的保育カリキュラム上・下』 加藤繁美 著 ひとなる書房 『幼児理解と評価』文部科学省 「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針」 『旧保育所保育指針』厚生労働省</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議などの他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	毎回パソコン使用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	必修
担当教員			
准教授 友廣憲子 6			

講義概要	<p>① 様々なテーマで表現する技術を学ぶことによって幼稚園教育要領に示されたねらいや内容を理解する。</p> <p>② 作曲の知識を培い、作曲を体験することを通して、幼児教育において育みたい資質・能力を理解する。</p> <p>③ 音楽絵本づくりを実践し、発表を体験する。鑑賞を通して自分の活動の評価を行う。</p>
授業計画	<p>1回目 作曲の基礎について① 学習課題 復習：作曲の基礎について振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>2回目 コードの確認と作曲② 学習課題 復習：コードの確認と作曲を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>3回目 身体表現と作曲③ 学習課題 復習：身体表現と作曲③を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>4回目 身体表現と作曲④ 学習課題 復習：身体表現と作曲④を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>5回目 身体表現と作曲⑤ 学習課題 復習：身体表現と作曲⑤を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>6回目 音楽絵本制作活動① 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>7回目 音楽絵本制作活動② 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>8回目 音楽絵本制作活動③ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>9回目 音楽絵本制作活動④ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>10回目 音楽絵本制作活動⑤ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>11回目 音楽絵本制作活動⑥ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>12回目 音楽絵本制作活動⑦ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>13回目 音楽絵本制作活動⑧ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>14回目 音楽絵本制作活動⑨ 学習課題 復習：音楽絵本制作活動を振り返る 予習：次のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>15回目 まとめ 音楽絵本の成果発表 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするため振り返る</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>① 幼稚園教育要領に示されたねらいや内容を踏まえ、様々な表現を理解することができる。</p> <p>② 音楽絵本に挿入する曲作りができる。</p> <p>③ 音楽絵本の構成ができる。</p> <p>④ テーマごとの身体表現ができる。</p> <p>⑤ 音楽絵本の発表や、他の人の発表を通して自分の活動を客観的に捉えることができる。</p> <p>音楽絵本の発表、全体的な仕上がり、課題への取り組みを総合して評価をおこなう 音楽絵本の発表(40%)、全体的な仕上がり(40%)、課題への取り組み(20%)</p>
科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)

教科書・参考書	テキスト:必要に応じ資料を配布 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
准教授 友廣憲子 6			
担当形態：単独			

講義概要	<p>① ドラムジカの実践を通して、幼児教育において育みたい資質・能力を理解する。 ② 子どものための「オペレッタ」を実演する活動を通して、幼児との主体的・対話的な関わり方を学ぶ。 ③ 様々な表現力を身に付ける。 ④ 幼稚園教育要領に示されたねらいや内容を踏まえオペレッタやドラムジカの実践を体験する。</p>
授業計画	<p>1回目 授業のねらいと「オペレッタ」① 学習課題 復習：授業のねらいと「オペレッタに」について振り返る 予習：課題の練習</p> <p>2回目 オペレッタについて② 学習課題 復習：オペレッタについて振り返る 予習：課題練習</p> <p>3回目 オペレッタについて③ 学習課題 復習：オペレッタ実践について振り返る 予習：課題練習</p> <p>4回目 オペレッタについて④ 学習課題 復習：オペレッタ実践について振り返る 予習：課題練習</p> <p>5回目 オペレッタについて⑤ 学習課題 復習：オペレッタ実践について振り返る 予習：課題練習</p> <p>6回目 オペレッタについて⑥ 学習課題 復習：オペレッタ実践について振り返る 予習：課題練習</p> <p>7回目 オペレッタの成果発表⑦ 学習課題 復習：成果発表について振り返る 予習：ドラムジカについて調べる</p> <p>8回目 ドラムジカについて① 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>9回目 ドラムジカについて② 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>10回目 ドラムジカについて③ 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>11回目 ドラムジカについて④ 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>12回目 ドラムジカについて⑤ 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>13回目 ドラムジカについて⑥ 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>14回目 ドラムジカについて⑦ 学習課題 復習：ドラムジカについて振り返る 予習：ドラムジカの世界をイメージする</p> <p>15回目 まとめと成果発表 学習課題 復習：今までの授業を振り返る 予習：保育現場でドラムジカができるようになる</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①歌唱力、表現力の技術を修得する。 ②毎回、積極的に授業に参加する。 ③自分の役割に責任を持って取り組むことができる。 ④自分の能力を客観的に把握することができる。 ⑤自分に足りない能力を開発しようとすることができる。</p> <p>授業内に発表する「オペレッタ」や「ドラムジカ」の表現力、歌唱力、参加意欲を総合評価する。</p> <p>「オペレッタ」30% 「ドラムジカ」の完成度50% 参加意欲20%</p>
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	保育内容〈表現音楽〉研究Ⅰを単位取得しておくこと。
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦 3			
担当形態：単独			

講義概要	本演習では、造形活動の幼児教育における意義を理解するとともに、自然物を用いた工作、壁面制作、絵画制作、立体工作などをおこなう。また、教材研究と指導法研究を学生の個人個人が独自に行い、授業内で発表の後、これに対する相互の意見交換を行なう。また、最終的に研究レポートを作成する。
授業計画	<p>1 はじめに 幼児の造形活動のねらいと内容、幼保小連携について 学習課題 復習：造形活動を通して子どもたちの育ちをはぐくむべきかを考える 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える</p> <p>2 幼児の表現活動の支援① こどもの部屋の運営準備（活動の大道具作り） 学習課題 復習：制作物の改善をおこなう 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える</p> <p>3 幼児の表現活動の支援② こどもの部屋の運営準備活動の小道具作り） 学習課題 復習：制作物の改善をおこなう 予習：子ども達の動きや反応を予想する</p> <p>4 幼児の表現活動の支援③ こどもの部屋の運営準備（環境構成） 学習課題 復習：不足しているものがないか確認する 予習：子ども達と共感する心境を作る</p> <p>5 幼児の表現活動の支援④ こどもの部屋の運営準実践 学習課題 復習：問題点の確認をおこなう 予習：問題解決の方策を探る</p> <p>6 幼児の表現活動の支援⑤ こどもの部屋の運営の振り返り（活動記録動画） 学習課題 復習：自らの保育の課題につなげる 予習：自然の与える感覚について考える</p> <p>7 自然物を用いた工作① ナチュラルアートの制作 学習課題 復習：自然物の素材の温かさを大切にしながら構想を続ける 予習：構想を具体的イメージにつなげていく</p> <p>8 自然物を用いた工作② ナチュラルアートの制作 学習課題 復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：切り紙遊びの楽しさについて考える</p> <p>9 壁面制作① 切り紙遊び 学習課題 復習：切り紙遊びの不思議さを楽しみ保育の構想を作る 予習：らくがき遊びについて考える</p> <p>10 壁面制作② らくがき遊び 学習課題 復習：らくがき遊びの不思議さを楽しみ保育の構想を作る 予習：自然物の持つ形のおもしろさについて考える</p> <p>11 絵画制作① 野菜のスタンプ遊び 学習課題 復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：フィンガーペインティングの魅力について考える</p> <p>12 絵画制作② フィンガーペインティング 学習課題 復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：ダンボールで作りたいものを考える</p> <p>13 立体工作① ダンボールアート（共同制作） 学習課題 復習：ダンボール素材の温かさを大切にしながら構想を続ける 予習：構想を具体的イメージにつなげていく</p> <p>14 立体工作② ダンボールアート（共同制作） 学習課題 復習：共同で作った作品を鑑賞する 予習：幼児のクラス編成を想定し、理想的な造形活動を構想する</p> <p>15 表現造形活動の構想 造形あそびの振り返り（活動記録動画）と指導案（研究レポート）作成 学習課題 復習：造形活動によって得られる効用について考える</p>
授業形態	演習

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児の造形活動についての重要性を理解する ②幼児の造形活動を計画する方法を習得する ③幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する ④幼児の造形活動に対する保育者の支援内容を習得する ⑤幼児の様々な活動を支える造形の役割を体験する</p> <p>授業回中または以後の評価期間に作品提出を義務付け、この作品の成果と学修の取り組みを加味し評価をおこなう。</p> <p>課題作品（50%）、学習の取り組み（50%）</p>
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）
教科書・参考書	<p>課題ごとに、必要な参考資料を提示。 参考書：『保育をひらく造形表現』 槇英子著 萌文書林 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
今年度開講せず			
担当形態：単独			

講義概要	本演習では、造形活動の幼児教育における意義を理解するとともに、自然体験、遊びの開発、幼児教育施設見学、造形活動計画などをおこなう。この中で教材研究と指導法研究を学生の個人個人が独自に行い、授業内で発表の後、これに対する相互の意見交換を行なう。また、最終的に研究レポートを作成する。
授業計画	<p>1 はじめに 幼児の造形活動のねらいと内容、幼保小連携について 学習課題 復習：表現のねらいと内容を確認する 予習：森のイメージを考える</p> <p>2 自然体験①（森の自然に触れる） 森の自然の中で様々な発見をし感性を磨く 学習課題 復習：森で発見したものを図鑑等で調べる 予習：森の造形活動を提案する</p> <p>3 自然体験②（森の自然を題材にした造形活動） 森の造形ワークをおこなう 学習課題 復習：森の造形活動の振り返りをおこなう 予習：海岸のイメージを考える</p> <p>4 自然体験③（海岸の自然に触れる） 海岸の自然の中で様々な発見をし感性を磨く 学習課題 復習：海岸で発見したものを図鑑等で調べる 予習：海岸の造形活動を提案する</p> <p>5 自然体験④（海岸の自然を題材にした造形活動） 海岸の造形ワークをおこなう 学習課題 復習：海岸の造形活動の振り返りをおこなう 予習：子どもの頃に遊んだ遊びをまとめる</p> <p>6 遊びの開発① 身近な材料で遊びを考える 学習課題 復習：遊びの促し方法を考える 予習：言葉かけの内容を考える</p> <p>7 遊びの開発② 遊びの実践をおこなう 学習課題 復習：実践の振り返りをおこなう 予習：造形活動のテーマを模索する</p> <p>8 造形活動計画（プランニング） 子ども達の育ちを想定しながらテーマと活動の計画を立てる 学習課題 復習：活動の流れをおさらいする 予習：準備品をどのように揃えていくか計画する</p> <p>9 造形活動計画（実施準備） 活動に必要な道具、材料を準備し、展開を計画する 学習課題 復習：忘れていないか点検する 予習：模擬保育の展開を考える</p> <p>10 造形活動計画（発表・相互評価） 模擬保育をおこなう 良い点と改善点をディスカッションする 学習課題 復習：模擬保育の振り返りをおこなう 予習：見学する園の基礎情報を確認する</p> <p>11 幼児教育施設見学（施設A） 子ども達の造形活動の様子を観察する 学習課題 復習：特出する子どもの活動内容をまとめる 予習：園で実践する造形活動を計画する</p> <p>12 幼児教育施設における造形活動の実践（施設A） 計画した造形活動を実践する 学習課題 復習：保育実践の振り返りをおこなう 予習：見学する園の基礎情報を確認する</p> <p>13 幼児教育施設見学（施設B） 子ども達の造形活動の様子を観察する 学習課題 復習：特出する子どもの活動内容をまとめる 予習：園で実践する造形活動を計画する</p> <p>14 幼児教育施設における造形活動の実践（施設B） 計画した造形活動を実践する 学習課題 復習：保育実践の振り返りをおこなう 予習：これまでの活動記録をまとめる</p> <p>15 おわりに 各自の造形活動振り返りと展望 指導案（研究レポート）作成 学習課題 復習：研究レポートをまとめる</p>
授業形態	演習

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児の造形活動についての重要性を理解する ②幼児の造形活動を計画する方法を習得する ③幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する ④幼児の造形活動に対する保育者の支援内容を習得する ⑤幼児の様々な活動を支える造形の役割を体験する
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示 参考書：『保育をひらく造形表現』槇英子著 萌文書林 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 学年	2 単位	必修
担当教員			
講師 藤野正和 11			
担当形態：単独			

講義概要	<p>①一般の人間関係の構造的な理解から子どもの人間関係の発達を結びつけることができる。 ②子どもの人間関係における集団力動についての知識を身につける。 ③多様な視点から子どもの人間関係の発達について考えていく力を身につける。 ④保育者として、保護者と関わることの意味について理解し、より円滑な関係を築いていく力を身につける。 ⑤保育者として子どもの人間関係を促す保育指導計画を立案・実践できる力を身につける。</p>			
授業計画	第1回	幼稚園・保育所での領域「人間関係」 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：「幼稚園・保育所での領域『人間関係』」についての資料を読んでおく。		
	第2回	子どもにおける人間関係のなかの自己 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「人間関係のなかの自己」について読んでおく。		
	第3回	子どもにおける出会いからの人間関係の発展 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「出会いからの人間関係の発展」について読んでおく。		
	第4回	子どもにおける非言語・言語的コミュニケーション 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「非言語・言語的コミュニケーション」について読んでおく。		
	第5回	子どもにおける好きと嫌いの人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「好きと嫌いの人間関係」について読んでおく。		
	第6回	子どもにおける援助の人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「援助の人間関係」について読んでおく。		
	第7回	子どもにおける支配と服従の人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「支配と服従の人間関係」について読んでおく。		
	第8回	子どもにおける攻撃と対立の人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「攻撃と対立の人間関係」について読んでおく。		
	第9回	子どもにおける集団のなかの人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：教科書の「集団のなかの人間関係」について読んでおく。		
	第10回	保育の中での気になる子どもと人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：「保育の中での気になる子ども」についての資料を読んでおく。		
	第11回	子どものうそと人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：「子どものうそ」についての資料を読んでおく。		
	第12回	子どもとロボットとの人間関係 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：「子どもとロボット」についての資料を読んでおく。		
	第13回	領域「人間関係」を考慮した保育指導計画 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：事例について規定の様式にしたがってまとめる。		
	第14回	領域「人間関係」を考慮した保育指導計画（情報教材の活用） 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：事例について規定の様式にしたがってまとめる。		
	第15回	領域「人間関係」を考慮した保育指導計画 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む。 予習：事例について規定の様式にしたがってまとめる。		
授業形態	講義・演習			
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	関心・意欲・態度	人間関係についての知識や子ども理解について積極的に発言することができる	評価の観点 評価手段・方法 授業態度	評価比率 15%
	思考・判断	子どもの自立、協同する体験、道徳性・規範意識を育むための保育者の役割について適切に判断できる	レポート	10%
	技能・表現	領域「人間関係」を考慮した保育指導計画を立案・実践することができる	レポート	10%
	知識・理解	幼稚園・保育所における領域「人間関係」、こどもの人間関係の発達課題、人間関係を育む保育者の役割と保育環境	レポート	65%

	等を説明できる
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	教科書：イラストレート人間関係の心理学 第2版 齊藤 勇 誠信書房 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後や教員の空き時間等で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	少人数での講義になるので、積極的に質問を行ってください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
講師 黒崎朗 19			

講義概要	<p>①環境教育に関するねらいと内容についての見識を深め、指導法の確立を図る。 ②園並びに園周辺の環境の実態を把握し活動資料を収集整理する。（動植物の飼育栽培及び見学計画の立案） ③動植物とのふれ合いを通じた活動・空気や水に関する科学遊び・物や道具の役割・扱い方を理解する。 ④記号・文字や数量に対する興味関心の持たせ方を理解し、保育者に必要な知識・技能を理解する。 ⑤子どもの視点に立つ園の環境構成のあり方を理解する。小学校教育への発展を見込んだ活動を理解する。</p>
授業計画	<p>1 授業ガイダンス 本科の領域「環境」を復習し、専攻科での内容や取扱い及び留意事項等の関連や発展内容についての確認 学習課題 予習：テキストに目を通し内容を確認（本科重要学習事項を再確認）</p> <p>2 人間の生活と環境 環境について理解し環境を活かす人間の工夫・衣食住に関連する環境による教育（電気をつくる） 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：テキストの精読</p> <p>3 環境をつくる I-① 物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：音を体験する（糸電話・風船電話・笛づくり） 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>4 子どもと園の環境 I 子どもを主体とする園環境の整備・周辺環境の活用（自然と親しむ）と指導法及び施設改善 学習課題 復習：課題プリントの記入 指定分野の新しい遊びのアイディアを創造 予習：テキスト第3章を精読</p> <p>5 環境をつくる I-② 物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：空気を知る：空気砲（紙玉でっぼう）・大気圧の体験 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>6 環境をつくる I-③ 物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：紙を使って（紙飛行機・牛乳パックブーメラン） 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>7 環境を守る 物を扱う 輪ゴムを使ってペットボトルの再利用（ペットボトル細工） 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：指定分野の新しい遊びのアイディアを創造 リサイクルの意義</p> <p>8 環境をつくる I-④ 物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：水溶液を知る（シャボン玉・色水・色の分離） 学習課題 復習：課題プリントの記入 指定分野の新しい遊びのアイディアを創造 予習：テキストの精読</p> <p>9 環境を知る①（季節を感じる） 身の回りの植物・昆虫と触れあう 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>10 行事と子どもの関わり ①家庭行事との関わり ②地域行事との関わり及び支援・指導法 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：本科テキスト季節の移り変わり精読 地域年中行事を探る</p> <p>11 環境を知る②（季節を感じる） プラネタリウムの観望・現地実習 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：テキストの精読（生物〈植物〉）を精読 指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>12 環境を知る③（季節を感じる） プラネタリウムの観望・現地実習 学習課題 復習：課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：テキストの精読（生物〈植物〉）を精読 指定分野の新しい遊びのアイディアを創造</p> <p>13 園環境の現状と改善の計画 〔課題レポート1〕・・・発表と考察検討 学習課題 復習：課題の発表準備 予習：テキスト（保育計画）・付録を精読</p> <p>14 園環境の現状と改善の計画 〔課題レポート2〕・・・発表と考察検討 学習課題 復習：課題の発表準備 予習：テキスト（保育計画）・付録を精読</p>

	15 保育計画の立案 インターンシップ園における保育計画案の検討年次計画・年間計画（月案・週案・日案の活用性ある形式） 学習課題 復習：保育所保育指針改定の要点を把握、幼稚園教育要領改訂の要点を把握
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①子どもたちが置かれている環境の実態を正しく把握できる。＜園環境と園周辺環境＞ ②望ましい園環境の整備と活動の年間計画が設計立案できる。 ③生物、空気、水や土など使った遊び（活動）の指導法を立案できる。 ④一人一人の子どもの長短を把握して活動の適切な支援ができる。 ⑤インターン園の環境をチェックし課題を見つけその改善を計画できる。 レポート「活動計画案」及び各領域ごとの活動と「実習園の環境点検・改善」と演習態度を総合して評価する。 レポート「活動計画案」30%、各領域ごとの活動30%、「実習園の環境点検・改善」30%、演習態度10%
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	教科書：指定しない 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
講師 新井悦子 15			
担当形態：単独			

講義概要	<p>子どもが親から離れて社会の中で生きていくためには、しっかりしたコミュニケーション能力を育てておかなければならない。その援助をするために、本科目では「子どもはどのようにして言葉を獲得していくのか」、また「それを支える保育者はどのような環境を用意し、どのようにかかわっていくのか」ということについて学習していく。</p> <p>授業は毎回、テキストの内容を学生たちが発表していく形式で進める。その中で、学生たちがインターンシップ先の職場で実際に体験した事例なども取り入れながら、生の子どもの言葉に触れ、子どもが人の話を聴いたり、言葉で表現したりする力を育てるための指導法も学習していく。</p>
授業計画	<p>1 学習の前に1 保育内容「言葉」を学ぶ：オリエンテーション。 日本語プレースメントテスト 学習課題 復習：プレースメントテストでできなかった部分の見直し 予習：「言葉をめぐるワークショップ」担当部分の発表準備</p> <p>2 学習の前に2 言葉をめぐるワークショップ 学習課題 復習：「言葉をめぐるワークショップ」全体の見直し 予習：「言葉の育つ道すじ」担当部分の発表準備</p> <p>3 言葉の育ちと保育1 言葉の育つ道すじ 学習課題 復習：「言葉の育つ道すじ」全体の見直し 予習：「言葉の前の言葉」担当部分の発表準備</p> <p>4 言葉の育ちと保育2 言葉の前の言葉 学習課題 復習：「言葉の前の言葉」全体の見直し 予習：「1つの言葉で」担当部分の発表準備</p> <p>5 言葉の育ちと保育3 1つの言葉で 学習課題 復習：「1つの言葉で」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（1）」担当部分の発表準備</p> <p>6 言葉の育ちと保育4 人とつながる言葉（1） 学習課題 復習：「人とつながる言葉（1）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（2）」担当部分の発表準備</p> <p>7 言葉の育ちと保育5 人とつながる言葉（2） 学習課題 復習：「人とつながる言葉（2）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（3）」担当部分の発表準備</p> <p>8 言葉の育ちと保育6 人とつながる言葉（3） 学習課題 復習：「人とつながる言葉（3）」全体の見直し 予習：「言葉で考える」担当部分の発表準備</p> <p>9 言葉の育ちと保育7 言葉で考える 学習課題 復習：「言葉で考える」全体の見直し 予習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」担当部分の発表準備</p> <p>10 言葉の育ちと保育8 言葉で表現する：遊びから生まれる表現 学習課題 復習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」全体の見直し 予習：「言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども」担当部分の発表準備</p> <p>11 言葉の育ちと保育9 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども 学習課題 復習：「言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども」全体の見直し 予習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」担当部分の発表準備</p> <p>12 言葉の育ちと保育10 言葉をめぐる相談の実際と対応 学習課題 復習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」全体の見直し 予習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」担当部分の発表準備</p> <p>13 言葉の育ちを考える背景1 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 学習課題 復習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」全体の見直し 予習：「児童文化財で広がる世界」担当部分の発表準備</p> <p>14 言葉の育ちを考える背景2 児童文化財で広がる世界、情報教材の活用例 学習課題 復習：「児童文化財で広がる世界」全体の見直し</p>

	<p>15</p> <p>予習：「子どもの言葉に心を寄せて」担当部分の発表準備 言葉の育ちを考える背景3 子どもの言葉に心を寄せて プレースメントテスト 学習課題 復習：「子どもの言葉に心を寄せて」全体の見直し プレースメントテストでできなかった部分の見直し 予習：課題レポートの準備</p>																						
授業形態	演習																						
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>評価の観点</th> <th>評価手段・方法</th> <th>評価比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①関心・意欲 態度</td> <td>子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。</td> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>②思考・判断</td> <td>子どもの言葉の獲得と発達の段階との関 を 理解する。</td> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③技能・表現</td> <td rowspan="2">子どもの言葉を育てる環境づくりの方法 を 理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習 得する。</td> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>④知識・理解</td> <td>ヒトの言語の基本的特性を修得する。</td> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点	評価手段・方法	評価比率	①関心・意欲 態度	子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。	授業態度	20%	②思考・判断	子どもの言葉の獲得と発達の段階との関 を 理解する。	レポート	20%	③技能・表現	子どもの言葉を育てる環境づくりの方法 を 理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習 得する。	授業態度	20%	レポート	20%	④知識・理解	ヒトの言語の基本的特性を修得する。	レポート	20%
	評価の観点	評価手段・方法	評価比率																				
①関心・意欲 態度	子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。	授業態度	20%																				
②思考・判断	子どもの言葉の獲得と発達の段階との関 を 理解する。	レポート	20%																				
③技能・表現	子どもの言葉を育てる環境づくりの方法 を 理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習 得する。	授業態度	20%																				
		レポート	20%																				
④知識・理解	ヒトの言語の基本的特性を修得する。	レポート	20%																				
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目																						
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）																						
教科書・参考書	テキスト：『演習保育内容言葉』戸田雅美編著 2010 建帛社 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領																						
履修条件																							
履修上の注意	次回の授業範囲（特にテキストの事例部分）を予習し、わかりやすい発表ができるようにしておくこと。																						
オフィスアワー	授業の前後で対応します。																						
備考・メッセージ																							

講義科目名称：臨床心理学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
今年度開講せず			
担当形態：単独			

講義概要	人間理解をテーマに、人のこころを理解する心理査定とカウンセリングなど心理療法の方法を学び、子どもと保護者支援の一助とする。
授業計画	<p>第1回 臨床心理学とは何か 臨床心理学の領域と限界</p> <p>第2回 面接技法 1 生育史、生活歴、行動観察など</p> <p>第3回 面接技法 2 心理面接の基礎</p> <p>第4回 子どもの問題行動の早期発見と診断方法</p> <p>第5回 心理アセスメント演習 1 知能検査、発達検査</p> <p>第6回 心理アセスメント演習 2 描画テスト、親子面接法、母子画、家族画</p> <p>第7回 心理アセスメント演習 3 ロールシャッハテスト、YG検査、内田クレペリン検査など</p> <p>第8回 心理援助の実際 1 障がい児を持った家族の心理とサポート</p> <p>第9回 心理援助の実際 2 箱庭療法、描画療法、遊戯療法</p> <p>第10回 子どもの問題行動と指導法 登園しぶりや神経症状へのアプローチ</p> <p>第11回 軽度発達障害児の療育</p> <p>第12回 被虐待児のケアと援助</p> <p>第13回 ADHD・LDの療育</p> <p>第14回 ロールプレイング</p> <p>第15回 保育者を支援するという考え方</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>子どもや保護者の「こころの問題」に触れることができるようになる さまざまな場面における心理を理解する心理査定としての心理テストの実際をマスターする カウンセリングや遊戯療法など子どもの問題と発達段階別の心理療法を駆使しサポートする方法を学ぶ 養育技術としてのペアレント・トレーニング技術を学ぶ</p> <p>心理テストへの取り組み（40%）、レポート（20%）、筆記試験（40%）</p>
科目（教職課程用）	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法
教科書・参考書	必要に応じプリントを配布する 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応しますので、気軽に訪ねてください
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修
担当教員			
教授 川原ゆかり 2			

講義概要	<p>①少子化・核家族化の中の子育てや、子どもの生活を育ちについて学ぶ。支援が必要な親子を理解する。</p> <p>②人間を理解することの基礎知識を学ぶ。子どもの理解の基本を学習する。親の支援法を理解する。</p> <p>③子育てにとまどう親の理解を深める。親の生育環境と育児についての見識を深める。親になるプロセスと養育性の関連について知る。</p> <p>④気になる子どもについて理解する。発達に問題を抱える子どもと親のかかわりについて学ぶ。障害を持つ子供の親の心理と援助について学ぶ。</p> <p>⑤相談助言に必要な基礎知識実際、カウンセリングの実際を体験する。組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。</p>
授業計画	<p>1 今日の子育てニーズの背景及び子育て支援の現状と課題</p> <p>2 保育児童（子育て）相談のあれこれ</p> <p>3 人間理解の方法・自己を知る（YGテスト）</p> <p>4 人間理解の方法 ～エゴグラム・事例を通して～</p> <p>5 幼児期の育ちの理解と人とのかかわり</p> <p>6 幼児期の育ちと人とのかかわり ～具体的事例から～</p> <p>7 親の養育主・育児性の発達</p> <p>8 親になるプロセス</p> <p>9 育ちに気がかりのある子どもと親の理解</p> <p>10 育ちに気がかりのある子どもと親の援助</p> <p>11 親の育児相談・助言の実際</p> <p>12 幼稚園、保育所と専門機関との連携 保育現場における相談の意義と理論を理解する</p> <p>13 心理的援助の実際・カウンセリングの実際</p> <p>14 障害を持つ子どもの親の心理と援助</p> <p>15 保護者支援の考え方について</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①育児支援の今日的な課題と意義について学び、保育者としての使命感や責任感を再認識する</p> <p>②人間理解（子どもと親）について知り、保育者の役割について考察するために、己についても知ることができる</p> <p>③親の養育性の理解を深め、子育て支援の意義について見識を高めることができる</p> <p>④育ちに気になる子どもと親について具体的事例を学び、発達障害児についての援助法を習得することができる</p> <p>⑤育児相談の実際について学習し、相談援助技術を高めることができる</p> <p>ディスカッション力（30%）および筆記試験（70%）を総合して評価する</p>
科目（教職課程用）	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教科書・参考書	<p>テキスト：『子どもの理解と援助』 保育出版社</p> <p>参考書：『子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社</p> <p>『保育者のためのカウンセリングマインド入門』 チャイルド社</p>

	『保育者のための相談・援助技術』 萌文書林 『言葉の交わし合い方』 学陽書房 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応しますので、気軽に訪ねてきてください
備考・メッセージ	

講義科目名称：子どもと道徳

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
今年度開講せず			

講義概要	<p>授業は基本的に講義形式で行うが、受講者同士の議論の時間も設ける。授業の内容については概ね以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの発達と道徳性に関する諸理論を概観する ・子どもの道徳性をはぐくむ生活や環境、他者との関係について検討する ・教育者、保育者に求められる道徳性について考察する 		
授業計画	1	導入	本授業の内容および進め方の提示
	2	道徳とは何か	子どもの道徳性とは何かについて考える（議論）
	3	道徳とは何か	幼稚園教育要領・保育指針・学習指導要領に見る道徳観を検討する
	4	子どもの発達と道徳	子どもの道徳性に関する思想を概説する①
	5	子どもの発達と道徳	子どもの道徳性に関する思想を概説する②
	6	子どもの発達と道徳	子どもの道徳性の発達に関する理論を概説する①
	7	子どもの発達と道徳	子どもの道徳性の発達に関する理論を概説する②
	8	道徳性の芽生え	家庭における道徳性の芽生えについて理解する
	9	道徳性の芽生え	幼稚園・保育所における道徳性の芽生えについて理解する
	10	道徳性を養う	道徳性をはぐくむ教育実践・保育実践を検討する①
	11	道徳性を養う	道徳性をはぐくむ教育実践・保育実践を検討する②
	12	教育者・保育者と道徳	子どもの人権と教育・保育について検討する
	13	教育者・保育者と道徳	「多文化社会に育つ子ども」「教育・保育とジェンダー」について検討する
	14	教育者・保育者と道徳	教育者・保育者の道徳性とは何かについて考える（議論）
	15	学修のまとめ	
授業形態	講義		
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>「道徳」という言葉は、社会全体のモラルの低下を嘆く際に度々耳にする言葉であるが、それ自体をテーマに論じるのは容易ではない。とりわけ「子どもの道徳」を論じる際には、「子どもにとって道徳とは何か」「子どもの道徳性はいかに芽生えるか」「子どもの道徳性をいかににはぐくむか」「教育者・保育者に求められる道徳性とは何か」など、難問ばかりである。</p> <p>本授業は、これからの問いを考える際に手助けとなる基本的事項を習得すること、そして受講者自身がそれらの知識をもとに自分なりの答えを導き出し、他者と意見を交換できるようになること、これらを目標とする。</p> <p>評価は、定期試験、コメントの提出、議論への参加状況等により総合的に行う。</p>		
科目（教職課程用）			
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等			
教科書・参考書	<p>教科書：特に指定しない、授業中適宜資料を配布する</p> <p>参考書：必要があれば授業中指示する</p>		
履修条件			
履修上の注意			
オフィスアワー	授業の前後で対応する		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
講師 安部直樹13、講師 戸田恵理子9			
オムニバス			

講義概要	「ホスピタリティ」の概念を理解し、私たちの暮らしの中にあるホスピタリティマインドについて理解する。また、本学の見学の精神でもある「茶道」を取り入れた教育活動等への参加を通して、保育者に必要なホスピタリティマインドを理解し、様々な保育現場においての実践を目指す。		
授業計画	1	ホスピタリティの概念 ホスピタリティの概念の理解 学習課題 復習： 予習：	
	2	ホスピタリティの概念 日本の文化におけるホスピタリティについて 学習課題 復習： 予習：	
	3	ホスピタリティを重視する茶道の目的 茶道文化とホスピタリティ精神の融合 学習課題 復習： 予習：	
	4	ホスピタリティを重視する茶道の目的 茶道点前を通したマナーや作法の習得 学習課題 復習： 予習：「松浦史料博物館について調べておくこと」	
	5	茶道鎮信流の歴史的背景 平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史① 松浦家と平戸の歴史について 学習課題 復習： 予習：「松浦家第37代詮（心月）が建築した茶室について事前に調べておくこと」	
	6	茶道鎮信流の歴史的背景 平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史② 閑雲亭（茶室）について 学習課題 復習：「閑雲亭や『百菓之図元本』等についてレポート提出のこと」 予習：	
	7	「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際 茶道大会への参加学習① 学習課題 復習： 予習：	
	8	「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際 茶道大会への参加学習② 学習課題 復習： 予習：「和・おもてなし・日本」をテーマにした製作活動に必要な準備をしておくこと	
	9	「和」を取り入れた保育・教育活動の実際 「和・おもてなし・日本」をテーマにした制作活動？ 学習課題 復習： 予習：	
	10	「和」を取り入れた保育・教育活動の実際 「和・おもてなし・日本」をテーマにした制作活動？ 学習課題 復習： 予習：「薄茶点前の確認及び役割の確認をしておくこと」	
	11	幼児教育の中の「茶道」の実際 幼児を対象とした茶道教育（お茶ごっこ）について 年中児とのかかわり 学習課題 復習： 予習：	
	12	幼児教育の中の「茶道」の実際 幼児を対象とした茶道教育（お茶ごっこ）について 年長児及び保護者とかかわり	

	<p>学習課題 復習：「茶道（お茶ごっこ）を通して年中児・年長児に身に付く内容等について、レポート提出のこと」 予習： 1 3 保育者に必要なホスピタリティマインド ホスピタリティを実践するためのマナーの重要性</p> <p>学習課題 復習： 予習： 1 4 保育者に必要なホスピタリティマインド 子どもと・保護者・職員間のコミュニケーションについて</p> <p>学習課題 復習： 予習： 1 5 学修のまとめ 研究レポート</p> <p>学習課題 復習： 予習：</p>
授業形態	講義・演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①ホスピタリティ (hospitality) の概念を理解する ②ホスピタリティを重視する茶道の目的を理解する ③身近な地域（平戸）に生まれた茶道鎮信流の歴史的背景を理解し、地域文化の伝承と発展について学ぶ ④「茶道」を取り入れた保育・教育活動に参加し、具体的なホスピタリティの実際について理解する ⑤ホスピタリティマインドを持つ保育者の必要性和その役割について考察する</p> <p>薄茶点前の習得 茶道大会等への参加 課題研究内容及びレポート提出等 総合的に評価を行う。</p> <p>受講態度（20%） 茶道（鎮信流）薄茶点前の確認や茶会等への参加（40%）、制作活動における作品（20%）、講義や実践活動のレポート提出及び内容（20%）を総合して評価を行う。</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：なし 参考書：必要に応じて文献等の資料を提示・配布</p>
履修条件	
履修上の注意	演習においては、薄茶点前の習得（確認）を目指す
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	<p>点前実技においては、服装や身だしなみなみにも十分に配慮すること。 また、講義に関連する資料等の収集・整理や道具準備も十分に行うこと。 第1回から第2回は安部が担当、第3回から第15回は戸田が担当する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
講師 西司 22			

講義概要	<p>①障がい概念と障害者福祉理念の歴史的展開について理解を深める。 ②障がい者福祉の関係法規、関連分野について理解を深める。 ③障がい者の権利擁護について学習する。 ④障がい者の生活実態とニーズを把握して福祉の相談支援とソーシャルワークについて学習する。 ⑤障がい者福祉の現状を考え、障がい者支援について考察する。</p>
授業計画	<p>第1回 I. 障がい者福祉の理念と歴史について（1） 障がいの定義について理解を深め、障がい者の生活とニーズについて学習する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第2回 I. 障がい者福祉の理念と歴史について（2） ノーマライゼーションの考え方と脱施設化、地域生活支援について理解を深める。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第3回 I. 障がい者福祉の理念と歴史について（3） 障がい者の自立問題と支援の視点について考える。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第4回 I. 障がい者福祉の理念と歴史について（4） 障がい者の権利保障について考える。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第5回 I. 障がい者福祉の理念と歴史について（5） 障害者福祉の歴史展開について 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第6回 II. 障がい者を支える法制度の現状と課題について（1） 障がい者総合支援法の体系と概要を理解する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第7回 II. 障がい者を支える法制度の現状と課題について（2） ①障がい者福祉の関連法規について学習する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第8回 II. 障がい者を支える法制度の現状と課題について（3） ②障がい者福祉の関連法規について学習する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第9回 前半のまとめとして、障がい者福祉についての理解度を確認する。 小テスト等の実施 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第10回 III. 障がい者支援とソーシャルワーク（1） ①事例から障がい者支援の実態について考える。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第11回 III. 障がい者支援とソーシャルワーク（2） ②事例から障がい者支援の実態について考える。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第12回 III. 障がい者支援とソーシャルワーク（3） 相談支援におけるソーシャルワークの意義、なぜソーシャルワークを学ぶのか、について考える。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p>

	<p>第13回 III. 障がい者支援とソーシャルワーク（4） 障がい者福祉の担い手について学習する。</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>第14回 障がい者福祉について考える（全体のまとめ） 障がい者福祉について意見発表を行いみんなで障がい問題について考える。</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：まとめのレポート作成について準備すること</p> <p>第15回 まとめ 障害者福祉について理解した内容をまとめレポートを提出する。</p> <p>学習課題 復習：これまでの講義の内容を再度振り返って理解を深めておくこと 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①「障がい」の捉え方について知見を広め、障がい者福祉の理念について理解できる。</p> <p>②障がい者福祉理念の歴史的発展について理解することができる。</p> <p>③障がい者の権利保障、差別解消について理解することができる。</p> <p>④ソーシャルワークを学ぶ意義について理解できる。</p> <p>⑤障がい者福祉の現代的課題を考察し、意見をまとめることができる。</p> <p>必要に応じて随時小テストを実施し授業への参加意欲・理解度を確認する。 最後に課題レポートと筆記試験で評価する。</p> <p>I. 達成目標①～④に関する理解度を筆記試験で評価する（50%） II. 達成目標⑤はレポートの完成度により総合的に評価する。（40%） III. 参加意欲（10%）</p>
科目（教職課程用）	②授業への意欲や態度（10%）
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	テキスト：新・基礎からの社会福祉「障害者福祉」ミネルヴァ書房 2019年、必要に応じて教材として資料配布予定。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	障がい者福祉に関する社会（新聞等）の情報等に関心をもって、学校で学んだこととの関連性をしっかり考えてほしい。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
教授 花城暢一 5			

講義概要	授業では社会における家族の意義や機能、子育てにおける家庭の役割等を学ぶ。また、今日の社会的状況と子育てを照らし合わせながら、子どもと家庭を援助していく知識・技術を習得する。講義の後半では、事例検討やロールプレイ等の演習を通して家族援助や地域福祉の視点から保育者に求められる専門性について考察を深めていく。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 子ども家庭援助技術の考え方について</p> <p>学習課題 予習：配布資料を読む。</p> <p>2 家族全体を地域で総合的に支援する 家庭問題を総合的に認識していく</p> <p>学習課題 復習：家族全体を支える取り組みについて振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>3 人間・家族・共同社会の発達 共同社会と家族の変容等</p> <p>学習課題 復習：社会や家族の歴史的変遷について理解を深める。 予習：配布資料を読む。</p> <p>4 人間・家族・共同社会の発達 人間の生涯生活における家族関係等</p> <p>学習課題 復習：ライフサイクルにおける家族関係について振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>5 家族の意義と家族システムの危機 家族と共同社会における子育て等</p> <p>学習課題 復習：社会における家族の捉え方などについて振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>6 家族の意義と家族システムの危機 家族システムの危機に対する社会支援等</p> <p>学習課題 復習：家族の役割と社会のサポートシステムについて振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>7 家族支援の視座と方法 ファミリーソーシャルワークの視座と方法等</p> <p>学習課題 復習：ソーシャルワークの体系について振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>8 家族支援の意義と活動 子育て・子育て・親育ち支援の意義と活動等</p> <p>学習課題 復習：家庭支援の意義と取り組みについて理解する。 予習：配布資料を読む。</p> <p>9 家族支援の意義と活動 家族における文化伝達の内容と支援の方法等</p> <p>学習課題 復習：家庭支援の意義と取り組みについて理解する。 予習：配布資料を読む。</p> <p>10 家族支援の制度・施策の現状と課題 家族福祉サービス・家族支援のネットワーク化等</p> <p>学習課題 復習：家庭を支えるサービスについて理解を深める。 予習：配布資料を読む。</p> <p>11 家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：事例検討を通して家族支援について理解を深める。 予習：配布資料を読む。</p> <p>12 家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：家族支援の実際についてインターンシップを通して振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>13 家族支援の実際</p>

	<p>子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：家族支援の実際についてインターンシップを通して理解を深める。 予習：配布資料を読む。</p> <p>1 4 家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：家族支援のロールプレイの内容を振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>1 5 保育者の役割と専門性 保育者の役割と専門性について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：保育者の役割と専門性について振り返る。 予習：配布資料を読む。</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①現代の保育問題や家族問題などの社会的動向を考える（分析する）姿勢を養うことができる。</p> <p>②家庭の機能と役割についての理解を深めることができる。</p> <p>③子どもや保護者とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。</p> <p>④相談援助で学習した内容を踏まえ、対人援助およびファミリーソーシャルワークに必要な知識・技術を習得することができる。</p> <p>⑤子どもや家庭を支援していく際の保育者の役割と専門性について考察を深めることができる。</p> <p>授業回または以後の評価期間にレポートの提出を求め、授業期間内に実施するロールプレイ・事例検討等への取り組みを加味して評価を行う。〔レポート（60%）、ロールプレイ等（40%）〕</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：必要に応じて資料を配布します。</p> <p>参考書：『よくわかる ファミリーソーシャルワーク』 喜多祐荘・小林 理 編、ミネルヴァ書房</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
講師 高橋幸市 21			

講義概要	<p>①子ども家庭福祉の基盤について理解を深め、そのあゆみを学ぶ。 ②子ども家庭福祉の仕組みや制度についてより深く理解する。 ③子ども家庭福祉を担う人的資源についてより深く理解する。 ④子どもを取り巻く現状や課題について学ぶ。 ⑤子どもを取り巻く現状や課題への対応を考察する。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方について説明を受け、子ども家庭福祉で学習する概要を理解する。 学習課題 予習：子ども家庭福祉に関するニュースに触れ、自信の学びたいテーマについてまとめる。</p> <p>2 現代の家族と夫婦、子育て、子育ち 少子高齢化をキーワードに現代の家族と子どもの育ちを取り巻く状況について理解する。 学習課題 予習：自分の育ちや家族について関心を持ち、振り返ってみておく。</p> <p>3 子どもと愛着 子どもが育つ上で欠かすことができない愛着について理解する。 学習課題 復習：講義内容を振り返って理解を深めておく。 予習：身の回りの児童虐待を疑わせる事例について思い返してみる。</p> <p>4 児童虐待1 児童虐待について理解し、各自の身の回りに児童虐待がないか意見交換する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>5 児童虐待2 児童虐待への対応について、機関ごとの役割と課題について理解する 学習課題 復習：講義内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>6 児童虐待3 虐待を長期にわたって受けた影響について理解し、支援の方法を学ぶ。感想や意見交換を行う。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>7 児童虐待4 児童虐待の事例をテーマにレポートを作成し提出する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>8 社会的養護1 社会的養護の仕組みについて理解する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>9 社会的養護2 社会的養護の中でも施設養護について、その可能性と課題について理解する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>10 社会的養護3 社会的養護の中でも、家庭養護について、その可能性と課題について理解する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>11 社会的養護4 社会的養護の事例をテーマにレポートを作成し提出する。 学習課題 復習：講義内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>12 社会的養護5 社会的養護における子どもの育ちについて、意見を出し合い支援者としての可能性を検討する。 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p>

	<p>1 3 家庭に居場所のない子どもを取り巻く諸問題 児童虐待、両親間のDV、少年非行を経て大人になっていく子どもたちのその後、世代間電伝達について理解する。</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：次回のテーマに関する資料を自分で探してみる。</p> <p>1 4 子どもの育ちの器として家庭を考える これまで学んできた子どもと家庭をめぐる在り様について、支援者として、当事者としてどんなことことができるのかディスカッションする。</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておく。 予習：まとめに向けて振り返りをし、発表内容をレポートにまとめておく。</p> <p>1 5 まとめ 子ども家庭福祉の今日的課題について学習し、考えたことをどの様に実践に活かすことができるのかを各自発表する。</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①子どもの育ちを家庭における愛着の観点から説明できる。 ②児童虐待について説明できる。 ③社会的養護について説明できる。 ④子ども家庭福祉の今日的課題について具体的に論ずることができる。 ⑤子ども家庭福祉の今日的課題を意識して保育実践に活かすことができる。</p> <p>講義とディスカッション3回のレポート作成で構成する。</p> <p>①達成目標に関する理解度を3本のレポートで評価する（60%） ②参加意欲（40%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの福祉に関する報道等へ常に関心を向けてほしい。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
准教授 北村光子 8			

講義概要	世代間交流は、親族集団で発生すると考えられるが、現代社会の風潮をみると親世代と子世代が其々のライフスタイルを守り独立した生活を営む傾向がある。それは、家族力の弱化和地域力の低下が挙げられ地域を含む世代間交流は希薄になってきている。授業では、事例から家族構成員（特に母親像）の役割について検討していく。また、高齢者と子どもの交流によって今後の家族像を模索しながらそれに携わる専門職にあり方を検討する。		
授業計画	1	世代間交流の概要① 世代間交流とソーシャルキャピタル、学際的性格 学習課題 復習：授業を振り返りノートにまとめる。 予習：世代間の相互学習	
	2	世代間交流の概要② 世代間の相互学習・相互支援 学習課題 復習：世代間の相互学習と支援 予習：プロダクティビティの視点	
	3	世代間交流の概要③ プロダクティビティの視点からみた高齢者の次世代支援 学習課題 復習：高齢者の次世代支援 予習：高齢者の生活	
	4	各世代者対象（歴史的視点）① 高齢者の理解 学習課題 復習：高齢者の心身の状況 予習：高齢者の身体	
	5	各世代者対象（歴史的視点）② 高齢者体験 学習課題 復習：高齢者の身体的な模擬から心を考える 予習：壮年期の生活	
	6	各世代者対象（歴史的視点）③ 壮年期の理解（母親像と父親像） 学習課題 復習：壮年期の状況 予習：母親の役割（文献収集）	
	7	各世代者対象（歴史的視点）④ 母親の役割 学習課題 復習：母親像をまとめる 予習：まとめたものを文献から根拠づけする	
	8	各世代者対象（歴史的視点）⑤ 母親像の発表・ディスカッション 学習課題 復習：他の学生の考え方と自分との比較から自分なりの母親像を模索する 予習：福祉文化について調べる	
	9	世代間交流と福祉文化① 佐世保市の福祉文化 学習課題 復習：居住地の文化を知る 予習：地域の保育	
	10	世代間交流と福祉文化② 地域と保育・教育機関 学習課題 復習：居住地の福祉文化 予習：親のあり方	
	11	世代間交流と福祉文化③ 親性準備期での教育的立場 学習課題 復習：子どもの教育 予習：文化と教育	
	12	世代間交流と福祉文化④ 教育と世代間交流 学習課題 復習：教育と世代間交流の関わり 予習：幼老複合施設	
	13	世代間交流と福祉文化⑤	

	<p>幼老複合施設</p> <p>学習課題 復習：幼老複合施設の意義 予習：文化と子どもの成長</p> <p>14 専門職のあり方① 世代間交流の場</p> <p>学習課題 復習：子どもの成長が伺える世代間交流 予習：保育士像</p> <p>15 専門職のあり方② 保育と介護の関わり</p> <p>学習課題 復習：保育士・介護福祉士のあり方 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①人間の生活を学生の日常生活と比較して検討する</p> <p>②介護福祉援助展開において、介護福祉の基本原則に則った対人援助の方法と技術を知る</p> <p>③介護福祉の専門性について基本的な考え方を知る</p> <p>④保育士や幼稚園教諭、介護福祉士に求められる倫理観について基本的な考え方を知る</p> <p>⑤今後の幼児・保育や介護福祉に関する諸課題を検討し理解を深める</p> <p>①授業における課題の取り組み (50%)</p> <p>②課題レポート (50%)</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	適宜プリント配布
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後や空きコマなど、教室や研究室で質問など受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、自分なりの考えをまとめ授業に臨むようにしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	卒業：選択
担当教員			
講師 井田裕子 16			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは家族の中に誕生し家族に育まれ成長発達しており、子どもと家族は一つの単位であること 又子どもを取り巻く人々地域社会との関連があることをとらえる。 ・「何か変！」と言うように いつもと違うことに気づく能力を身につけて、観察の重要性と主な症状に対する関わり方や健康問題とその対応を事例紹介などで深める。 ・子どもを取り巻く環境や事故の要因について特徴をとらえて 応急措置や予防法を学内演習で学ぶ。 ・安静を必要とするこどもの遊びについてはグループワークで具体例を出し合いながら検討し内容を深めていく。
授業計画	<p>1 小児看護の特質 小児看護の対象と目標、小児看護の場と役割</p> <p>2 小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響 小児の健康問題・子どもの反応・親や兄弟の反応</p> <p>3 子どもの健康状態の把握 観察の重要性（異常の気づき）、病気の特徴</p> <p>4 小児にみられる主な症状の見方と対応 啼泣・不機嫌、発熱・せきなど</p> <p>5 小児にみられる主な症状の見方と対応 腹痛・下痢・便秘・嘔吐・脱水など</p> <p>6 小児にみられる主な症状の見方と対応 頭痛・けいれん・発疹など</p> <p>7 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザ）予防接種</p> <p>8 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど</p> <p>9 くすりの取り扱いと服薬法 服薬法（散剤・水薬・シロップ）座薬の使い方・救急箱</p> <p>10 子どもの事故と安全対策 事故の原因・救急措置・異物誤嚥</p> <p>11 子どもの事故と安全対策 切傷・刺傷・擦過傷・骨折・熱傷・鼻出血</p> <p>12 保育における子どもの健康管理 保育中の子どもの体調不良や感染症発生時の対応</p> <p>13 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静の必要性、安静を必要とする子どもの遊び グループワーク</p> <p>14 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静を必要とするこどもの遊び グループワーク</p> <p>15 保育者としての健康管理 個人衛生・自己管理</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①小児看護の特質や健康問題が及ぼす家族への影響が理解できる</p> <p>②小児にみられる主な症状の見方と看護の基礎知識を身につけることができる</p> <p>③小児がよく遭遇する健康問題のある子どもへの対応が理解できる</p> <p>④こどもの事故の特徴をとらえ事故防止と安全の重要性がわかる</p> <p>⑤安静を必要とするこどもの遊びを考えその関わり方がわかる</p> <p>授業終了後の筆記試験（60%）、授業内の課題提出（30%）、学習の取り組みや態度（10%）を総合して評価をおこなう。</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	テキスト：「小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」 医学書院
履修条件	
履修上の注意	

オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：必修
担当教員			
講師 新井悦子 15			

講義概要	児童文化財の歴史・現在の子どもと児童文化財について学ぶ。絵本を中心に取り上げ、ディスカッションを通じて、絵本の特性・絵本の問題点・絵本から遊びに発展させる方法などを身に付ける。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業のねらい・進め方、評価についての説明 学習課題 復習：授業のねらい・進め方・評価について振り返る 予習：児童文化の歴史の変遷について学ぶ（教科書）</p> <p>2 児童文化のあゆみ 児童文化の歴史の変遷 学習課題 復習：児童文化の歴史の変遷について振り返る 予習：児童文化財にはどのようなものがあるか調べる。</p> <p>3 児童文化財の特性 児童文化財（絵本・紙芝居・人形劇・ペープサート・素話・劇遊びなど）の特性について学ぶ 学習課題 復習：児童文化財の特性について振り返る 予習：子どもを取り巻く社会の変化について考える。</p> <p>4 現代の子どもを取り巻く環境 子どもを取り巻く社会の変化 学習課題 復習：子どもを取り巻く社会の変化について振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する</p> <p>5 課題別絵本研究 絵本に描かれる母親 学習課題 復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する</p> <p>6 課題別絵本研究 絵本に描かれるジェンダー 学習課題 復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する</p> <p>7 課題別絵本研究 障害 学習課題 復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する</p> <p>8 課題別絵本研究 国際理解 学習課題 復習：今回のテーマの絵本について振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する</p> <p>9 課題別絵本研究 役割を持つ絵本 学習課題 復習：今回のテーマの絵本について振り返る 予習：自分でテーマを考える</p> <p>10 課題別絵本研究 学生自身によるテーマを設定する。調べる。 学習課題 復習：自身で設定したテーマ・絵本について振り返る 予習：自身で設定したテーマの絵本について調べる、考えをまとめる</p> <p>11 課題別絵本研究 課題別研究の発表 学習課題 復習：各受講生の発表を振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる実例を調べる</p> <p>12 絵本から遊びへの発展 実例を学ぶ 学習課題 復習：絵本から遊びへ発展させる実例について振り返る 予習：園での絵本から遊びへ発展させる実例について調べる</p> <p>13 絵本から遊びへの発展 園での実例報告 学習課題 復習：各受講生の報告を振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる具体案を考える</p> <p>14 絵本から遊びへの発展 絵本から遊びへ発展させる具体案を考える 学習課題 復習：絵本から遊びへ発展させる具体案について振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる具体案の発表の準備をする</p> <p>15 絵本から遊びへの発展 絵本から遊びへの発展について発表する 学習課題 復習：各受講生の発表を振り返る</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①児童文化の歴史について知る。</p> <p>②子どもを取り巻く環境（生活や遊び）について知る。</p> <p>③児童文化財のそれぞれの特性・活用法を理解し、体験する。</p> <p>④絵本に関するテーマを自ら見つけ、調べ、発表する。</p>

	<p>⑤絵本から遊びに発展させる方法を立案し、発表する。</p> <p>積極的なディスカッションへの参加と個人およびグループでの研究発表を評価する。</p> <p>ディスカッション内容（30%）、研究発表（50%）、課題レポート（20%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	テキスト：教科書 購入「絵本から学ぶ子どもの文化」 浅木尚実（編著） 同文書院 2015 978-4-8103-1439-7
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問等に対応します
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 読み語りなどの練習。テーマ別の絵本の選定、研究、発表。絵本から発展させる遊びについて研究、立案、発表。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
准教授 吉田美恵子 7			
実務教員			

講義概要	保育所・幼稚園・認定こども園における保育に関わり、子どもの姿を通して保育のあり方を考察する。 園・保育者・家庭・地域の協力体制のなかで自己の役割を明確にし、責任感を持って保育にあたり、インターンシップの記録の意義と重要性を理解する		
授業計画	1回	インターンシップについて インターンシップと保育者としての責任 記録の重要性 学習課題 復習：記録の構成をパソコンに入力する 予習：実習における保育記録について	
	2回	幼児理解と記録の重要性 保育者の姿勢と関わり方の視点 学習課題 復習：インターンシップ記録のねらい設定 他授業内容との関連と記録の視点 予習：地域活動について	
	3回	地域活動と子育て支援 地域活動（親子交流・ステージ発表・準備）と子育て支援 学習課題 復習：役割の把握とステージ発表の流れの確認 予習：子どもを意識したステージでの表現の方法と役割	
	4回	子育ての現状 社会の変化と保育・教育施設 子育て支援団体との交流 学習課題 復習：地域活動を通して学んだことの整理 予習：倉橋惣三を調べる	
	5回	倉橋理論と現代の保育 倉橋惣三の生涯から現代の保育の源流を探る 学習課題 復習：倉橋惣三についてまとめ、保育の歴史の変遷を確認する 予習：「育ての心」・「子ども賛歌」を読む	
	6回	倉橋理論と現代の保育 「育ての心」「子ども賛歌」を通して、不易と流行についてディスカッションをする 学習課題 復習：現代の保育の史的源流を知り、不易と流行についてまとめる 予習：インターンシップでの遊びの事例を選択	
	7回	保育の展開と工夫 インターンシップ記録の事例発表と協議・考察 学習課題 復習：協議内容などから自身の保育実践の検証をする 予習：保育形態について調べる	
	8回	保育の展開と工夫 世界の様々な保育を理解する。 保育の形態と子どもの主体性 学習課題 復習：世界の代表的な保育についてまとめる 予習：子どもの主体的な活動について調べる	
	9回	保育内容における遊びの意味 遊びの展開から見える子どもの育ちと主体性 学習課題 復習：遊びの場面展開、事例の考察 予習：幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を把握する	
	10回	保育内容における遊びの意味 遊びの構造と子どもの育ち 学習課題 復習：遊びの構造の理解 子どもの育ちと育てる作用を整理する 予習：日本文化の流れと子どもの姿	
	11回	保育内容における遊びの意味 幼児教育における遊びの史的源流 学習課題 復習：文化の継承と変化についてまとめる 予習：子どもの発達過程の把握	
	12回	保育の中で見る子どもの発達 子どもを観る→見分ける→見つめる→見極める 学習課題 復習：実践に照らし合わせて子どもの発達を理解する 予習：養護と教育について指針や要領で確認する	
	13回	保育の中で見る子どもの発達 実践例をもとに省察とトークセッション	

	<p>学習課題 復習：実践例をカテゴリーで分類 予習：自身の保育における課題</p> <p>1 4回 環境の構成 子どもを取り巻く環境 人的・物的・空間的（時間）</p> <p>学習課題 復習：子どもを取り巻く環境の課題や問題点を整理する 予習：インターンシップ記録を整理し、チェック反省行う</p> <p>1 5回 インターンシップ記録の内容分析 実態把握と今後の課題抽出</p> <p>学習課題 復習：インターンシップでの子どもの姿の変化を記録に残し、改善点を探す 予習：インターンシップ記録の整理と課題を明確にする</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①インターンシップについて理解する ②記録の大切さと重要性を理解し、実践記録をつける ③保育者の姿勢と関わりの視点を明確にする ④保育理論をもとに保育実践を検証する ⑤今日的话题や情報をもとに保育者の役割を明確にする</p> <p>授業内レポートの内容や協議に対する意見発表に加えインターンシップ記録について評価する</p> <p>授業内レポート（30%）ディスカッション内容（20%）インターンシップ記録（50%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：保育用語辞典及び関連資料を適宜活用する</p> <p>参考書：『子どもに生きた人・倉橋惣三』 森上史郎 著 フレーベル館 『乳幼児期における遊び』 O.N. サラチョ・B スポデック 共編著 培風館</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業後PM6:00から可能。実習巡回・会議の他は随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
准教授 吉田美恵子 7			
実務教員			

講義概要	保育の実践・記録を行う中で、反省・評価を丹念に分析する。保育の構造を理解し、保育者としての適切な援助の仕方や配慮を学習していく。又、手作りの教材を保育に活かすタイミング等を習得する。		
授業計画	1回	課題の確認 インターンシップにおける自己課題の確認 学習課題 復習：前期のインターンシップ記録の読み返し 予習：自己課題の抽出	
	2回	行事と子どものかかわり 保育行事を見直す視点 学習課題 復習：インターンシップ記録の中の行事を選択しておく 予習：運動会などのプログラムの内容をみしておく	
	3回	行事と子どものかかわり 子どもの主体的な活動の場となる行事計画 学習課題 復習：行事の中の保育者の援助 予習：行事のテーマと主体的な子どもの活動場面の抽出	
	4回	「文化」と人間形成 文化の捉え方（見える文化と見えない文化） 学習課題 復習：運動会の意義について 予習：伝承遊びの体験について	
	5回	子どもの文化と遊び 発達と文化が関わり合う保育と保育者の役割 学習課題 復習：伝承遊び、昔遊びの体験と子どもへの影響 予習：『子どもの発達と文化のかかわり』参考書資料を読む	
	6回	保育に活かす手作り教材 インターンシップや保育に活かす教材作成 学習課題 復習：昔遊びから変化させた手作り教材 予習：教材作成に適した材料選択	直線縫い、玉止めなど基本の練習
	7回	保育に活かす手作り教材 インターンシップや保育に活かす教材作成 学習課題 復習：手作り教材作成と遊びのイメージ 予習：保育に活かす手作り教材と予想される子どもの姿	
	8回	手作り教材の保育効果 保育の流れと保育実践 学習課題 復習：手作り教材を用いて、保育における活用方法と実践の感想をまとめる 予習：子どもにとってふさわしい生活と保育の流れについて調べる	
	9回	子どもの安定した生活 デイリープログラムに基づく実践と考察 学習課題 復習：インターンシップ記録の読み返しと育ちの検証 予習：創作話・素話の構想	
	10回	創作話 子どもの心を豊かにする童話・素話 学習課題 復習：子どもが興味関心を持つ童話と発達に即した内容の選択 予習：保育場面における言葉かけや援助を再考	
	11回	観察と記録の工夫 自然・参加・組織的・実験的観察法 学習課題 復習：他者のインターンシップ記録から観察の方法、子どもを観る感性を培う 予習：保育学、教育学研究者の論文を読む	
	12回	望ましい保育者像 人間性と専門性 学習課題 復習：文献や論文を読みまとめ保育者として大切な要素を考える 予習：私見をまとめる	
	13回	望ましい保育者像 論説を読み概要と自身の意見を発表する	

	<p>学習課題 復習：子どもの主体的な活動場面と育ちについて 予習「子どもの自己肯定感を育む保育実践について」の各論説を読む</p> <p>1 4回 保育の評価 子どもの成長の評価と保育者の自己評価</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録1年間における自己評価 予習：インターンシップにおける保育の目標の再確認</p> <p>1 5回 インターンシップ記録の内容分析 新たな課題の抽出</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録の記述内容を領域別にチェック 予習：インターンシップ記録の効果と改善について</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①インターンシップについて自己課題を明確にする ②子どもの姿をもとに保育の創意・工夫をする ③保育職の現状や役割を把握する ④保育と文化の関係について理解する ⑤保育実践を丁寧に考察し、反省・評価を行い改善することができる</p> <p>授業への意欲、積極性。創意工夫した保育教材の作成と活かし方。インターンシップ記録の視点。</p> <p>授業内レポート（20%）保育教材作成（20%）インターンシップ記録（60%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する 参考書：『保育者の地平』 津守真 著 ミネルヴァ書房 『子どもの発達と文化の関わり』 小田豊・森真理 編著 光生館</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議などを除き授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	個人用の小さい裁縫箱セットの準備

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
准教授 吉田美恵子 7			
実務教員			

講義概要	生活における環境との多様な関わりを通して、心情・意欲・態度が育つことを重視し、乳幼児の「生きる力」が養われる過程を学習する。 「保育者としての自己課題」「保育観、子ども観」など問題意識を持ち、セッション等を行う中で、自らの保育の適切性を吟味する。
授業計画	<p>1回 記録の客観性と継続性 1年間のインターンシップ記録をもとに形式を設定する 学習課題 復習：形式をパソコン入力する 予習：1年次のインターンシップ記録を読み返す</p> <p>2回 年間計画・目標の設定 インターンシップの実態を踏まえた実践目標 学習課題 復習：2年次のインターンシップ記録の作成 予習：これまでの子どもの姿を踏まえた目標の選択</p> <p>3回 地域社会との交流 地域活動イベントの意義と役割（計画・企画） 学習課題 復習：1年次の地域イベントのまとめ 予習：イベントでの行動・企画の提案資料</p> <p>4回 地域イベント交流と連携 地域イベント交流（実践・反省・改善） 学習課題 復習：地域イベントの意義を体験を通じた結果から考える 予習：科学的な芽生えを育む遊びについて調べる</p> <p>5回 科学する心を育てる保育の実践 知的好奇心の芽生え 学習課題 復習：子どもの発達と環境への働き・気づきの事例 予習：センス・オブ・ワンダーについて調べる</p> <p>6回 科学する心を育てる保育の実践 驚きや不思議と付き合う園の生活 学習課題 復習：インターンシップでの体験事例の整理 予習：遊びのなかにある科学を探す</p> <p>7回 科学する心を育てる保育の実践 子どもがときめく「場作り」「状況作り」「情況作り」 学習課題 復習：遊びの中にある科学を紹介、発表する準備 予習：実験や実践の準備</p> <p>8回 科学する心を育てる保育の実践 知的な気づきをウエビイングする保育実践 学習課題 復習：科学のおもしろさ不思議さに気づく遊びの発表をまとめる 予習：パネルシアターの内容選択</p> <p>9回 保育教材作成（パネルシアター） 子どもに伝えたい内容を把握し、パネルシアターを作成する 学習課題 復習：パネルシアターの特性を活かし教材作成をする 予習：パネルシアターの展開と話し方の工夫</p> <p>10回 保育教材作成（パネルシアター） 子どもに伝えたい内容を把握し、パネルシアターを作成する 学習課題 復習：パネルシアターの特性を活かし教材作成をする 予習：パネルシアターの展開と話し方の工夫</p> <p>11回 パネルシアター発表 自作のパネルシアターを発表 他者の創意工夫を学び意見交換をする 学習課題 復習：レポートをまとめ、自作の改善をする 予習：インターンシップ記録の中から発表したい内容を整理しておく</p> <p>12回 インターンシップ記録の考察と発表 インターンシップにおける保育者の援助について事例をもとに発表する 学習課題 復習：保育場面での援助の方法で良かった点、改善を要する点を整理する 予習：保育の中で感じる困った場面の事例の抽出</p> <p>13回 インターンシップ記録の考察と発表</p>

	<p>保育の中で感じる困った場面の事例発表とディスカッションを行う</p> <p>学習課題 復習：問題意識を持ち、子どもを中心に解決方法を探求しまとめる 予習：パワーポイント作成（インターンシップにおける保育観の変化と子どもの育ち）</p> <p>1 4回 保育のPDCAサイクル インターンシップにおける保育観の変化と子どもの育ちについて発表する</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ保育実践内容の評価と改善 予習：インターンシップ記録の整理</p> <p>1 5回 実践研究の考察と課題 実践事例にみられる子どもの変化と保育者としての自身の変化をまとめる</p> <p>学習課題 復習：自己課題をまとめ改善方法を探求 予習：インターンシップ記録をまとめ提出する</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①記録を効果的に保育に活かすことができる ②子どもの発見や気づきに共感し、遊びの発展ができる ③意欲的に環境と関わり保育者自身の感性を豊かにし、子どもが育つものが理解できる ④地域社会における保育者の役割が理解できる ⑤実践の省察を行い、自分なりの保育観が発表できる</p> <p>授業への意欲・積極性と探求しようとする態度、及びインターンシップ記録の継続した観察記録</p> <p>授業内レポート・教材作成（20%）プレゼンや発表力（20%）インターンシップ記録（60%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する 保育用語辞典</p> <p>参考書：『自分づくりと保育の構造』 加藤繁美 著 ひとなる書房 『8歳までに経験しておきたい科学』 J.D. ハーレン M.S. リブキン 著 北大路書房</p>
履修条件	
履修上の注意	パネルボード作成用のボード2枚 ネル生地 パネル用ペーパー を使用する
オフィスアワー	実習巡回・会議などの他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
准教授 吉田美恵子 7			
実務教員			

講義概要	<p>乳幼児は、発達に適した環境の中で、遊びを中心とした活動を通し様々な体験をしながら、「生きる力」が育っていくことを理解する。本授業では、日々の保育実践を生み出すための基本的な理念・保育の目標や目的・保育のキーパーソンとなる保育者の役割についてまとめ、再認識する。</p> <p>2年間のインターンシップの記録を整理・分析し、課題を明確にしながら自己の保育観を豊かにすることによって、今後適切な方法で保育現場に伝達することが出来ることを目指す。</p>		
授業計画	1回	<p>保育の展開と保育者の姿勢 人的環境としての教師の役割</p> <p>学習課題 復習：前期のインターンシップ記録の読み返し 予習：乳幼児期の「心の発達」について調べる</p>	
	2回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む 乳幼児期における「心の発達」と「心の理論」</p> <p>学習課題 復習：領域（人間関係）を実践記録から抽出して考察 予習：インターンシップでのトラブル場面</p>	
	3回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む 園生活の中の心地よさとトラブルについて実践例から考察</p> <p>学習課題 復習：子どもの生活の心地よさやトラブル場面における保育者の役割と子どもの心の育ち 予習：非認知能力について</p>	
	4回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む 学びに向かう力（非認知能力・社会情動的コンピテンス）</p> <p>学習課題 復習：実践事例から学びに向かう力の考察をする 予習：「資質・能力の3つの柱」について調べる</p>	
	5回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む 子どもの中に育つ力「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性」を実践から考察する</p> <p>学習課題 復習：3つの柱と子どもの中に育つ力の関連性をまとめる 予習：保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領を読み解く</p>	
	6回	<p>保・幼・小連携（接続と相互理解） 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の関連、連続性について</p> <p>学習課題 復習：保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の関連、連続性についてまとめる 予習：子どもと共に作る劇遊びのテーマ</p>	
	7回	<p>劇あそびの構成・企画 地域子育て支援活動（共に作りあげる企画と実践）</p> <p>学習課題 復習：これまでの保育実践や教材作成を地域子育て支援活動に活かす 予習：表現方法、演じ方の練習</p>	
	8回	<p>地域子育て支援と保育者の役割 社会的資源としての保育園・認定こども園・幼稚園の役割</p> <p>学習課題 復習：園・家庭・地域との連携を深めた活動例 予習：子どもを取り巻く社会的変化と園の役割</p>	
	9回	<p>食育について 「食生活指針」と子どもの生活と食事について</p> <p>学習課題 復習：前期作成の保育の全体的な計画から食育の項目の内容確認 予習：子どもの食に関する記事や著書を読む</p>	
	10回	<p>食育の目標 子どもの食に関する記事や著書を通して問題点を抽出する</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録の中の食育 予習：保育園や幼稚園の給食内容</p>	
	11回	<p>食育の実践</p>	

	<p>育てた野菜の収穫や調理実践を通して子どもとできる調理を考える</p> <p>学習課題 復習：レシピをまとめる 予習：2年間のインターンシップ記録を読む</p> <p>1 2回 2年間のインターンシップから発表のテーマを考える 2年間のインターンシップ記録から子どもの成長を読み解き、保育者としての実践との関連を考察する</p> <p>学習課題 復習：子どもの育ちと援助の効果についてまとめる 予習：パワーポイント作成準備</p> <p>1 3回 インターンシップから得たものをまとめる パワーポイント作成</p> <p>学習課題 復習：発表のテーマと内容をパワーポイント入力する 予習：発表に向けて準備</p> <p>1 4回 プレゼンテーション 2年間のインターンシップを通して得たものをプレゼンし、他者の発表内容を理解する</p> <p>学習課題 復習：全員のプレゼン内容をまとめる 予習：学びの総括と後輩へのメッセージを考える</p> <p>1 5回 インターンシップの成果と保育者としての自己課題 インターンシップの成果をまとめ、保育者としての自己課題を明確にする 後輩へのメッセージを書く</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ2年間の記録の整理と保育者としての自己課題 予習：専攻科での学びとインターンシップ実践から得たものを今後につなげる</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児期にふさわしい生活の適切な援助を理解する ②子どもの内面と向き合う保育の姿勢が理解できる ③基本的な保育理論を理解し、それを土台にした保育実践を目指すことができる ④家庭・地域社会との連携と連続性が理解できる ⑤2年間の実践記録をまとめプレゼンテーションができる</p> <p>授業態度や意欲的に探求しようとする意志、発表力、インターンシップ記録のまとめなどの総合評価とする 授業内レポート（20%）発表力（10%）インターンシップ記録のまとめ（70%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領</p> <p>参考書：『子育て支援の理論と実践』 子育て支援プロジェクト研究会 ミネルヴァ書房 『対話と保育実践のフーガ』 加藤繁美 著 ひとなる書房</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議等の他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦3、講師 座間味愛理10、講師 藤野正和11			
クラス分け			

講義概要	最初に研究の意義と進め方について講義し、各学生の研究テーマが設定された後にこの研究指導教員を決定する。以後、ゼミナール形式で研究を進めていく。
授業計画	<p>1 オリエンテーション① 修了研究の2年間の流れについて 学位申請について 学習課題 予習：学科時代の保育実践演習のレポート作成の振り返りをおこなう 復習：学位取得への意識を高める</p> <p>2 情報リテラシー 研究室からの情報検索について 学習課題 予習：ノートパソコンの準備をする 復習：情報検索の復習をおこなう</p> <p>3 研究テーマの検討 担当教員の紹介（研究・教育内容等について） 教育学研究の関心事調査 学習課題 予習：教育学研究の関心事についてまとめておく 復習：研究の具体的方法について構想する</p> <p>4 研究① 問題状況の設定 学習課題 予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>5 研究② 問題状況の設定 学習課題 予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>6 研究③ 問題点の絞り込み 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>7 研究④ 問題点の絞り込み 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>8 研究⑤ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>9 研究⑥ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>10 研究⑦ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>11 研究⑧ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>12 研究⑨ 問題解決の方針案 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>13 研究⑩ 問題解決の方針案 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>14 研究⑪ 研究テーマの明確化 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>15 研究⑫ 研究テーマの明確化 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p>
授業形態	演習

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自らの保育観および保育者観を見出す意思を持つことができる</p> <p>②保育職の社会的役割や倫理について理解することができる</p> <p>③多視点の観点によって問題を客観的に考察することができる</p> <p>④基本的な情報リテラシーを身につけている</p> <p>⑤自ら追求すべき研究課題を見つけている</p> <p>研究に対する取り組み（50%）と研究の成果（50%）について評価する</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦3、講師 座間味愛理10、講師 藤野正和11			
クラス分け			

講義概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。学生各自が提起した幼児教育（保育）における問題・課題について、ゼミナールの担当教員が助言指導をおこないながら研究を進めていく。学年末には研究経過発表会を開催し、ここで研究経過の論文発表をおこないインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を受け、さらに2年次の研究へとつないでいく。
授業計画	<p>1 研究① 論文の章立て検討 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>2 研究② 論文の章立て検討 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>3 研究③ 問題解決の実施・評価のプロセスの記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>4 研究④ 問題解決の実施・評価のプロセスの記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>5 研究⑤ 仮説の記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>6 研究⑥ 仮説の記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>7 研究⑦ 論文全体の調整と経過的テーマの設定 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>8 研究⑧ 学年末成果レポート（研究経過）の作成 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：文章を推敲する</p> <p>9 研究⑨ 学年末成果レポート（研究経過）の作成 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：研究の振り返りをおこなう</p> <p>10 研究経過発表会の資料作成① 論文（研究経過レポート）集編集 学習課題 予習：論文（研究経過レポート）の印刷原稿を作成する 復習：論文（研究経過レポート）をデータ保存する</p> <p>11 研究経過発表会の資料作成② パワーポイント作成 学習課題 予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>12 研究経過発表会の資料作成③ 口頭発表練習 学習課題 予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>13 研究経過発表会の資料作成④ 質疑を想定しながら補助資料の作成 学習課題 予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう</p> <p>14 研究経過発表会の実施① 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を再確認する</p> <p>15 研究経過発表会の実施② 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の発表について振り返る 復習：助言指導について振り返る</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自らの保育観および保育者観を形成するための総合的学習を行い、多角的なスキルを身に着けている</p> <p>②先行研究の論拠や方向性を理解し、自己課題を見つけることができています</p> <p>③保育・教育や社会問題に関する情報を適切に収集・分析し、問題意識を持つことができています</p> <p>④問題に対して論理的な仮説を立てることができています</p> <p>⑤研究方法と研究計画を立案することができています</p> <p>研究に対する取り組みと研究の成果について評価する</p> <p>研究の取り組み（50%）、学年末の成果と研究経過発表会のプレゼンテーション内容（50%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦3、准教授 花城暢一5、講師 座間味愛理10、講師 藤野正和11			
クラス分け			

講義概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。1年次末におこなった研究経過発表会においてインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を生かしながら、2年次の研究へとつないでいく。特に研究データの収集や研究保育の実施およびこの分析と考察を進めながら、研究内容に深さを求めている。		
授業計画	1	オリエンテーション 2年次の研究の進め方について 学位申請の流れについて 学習課題 予習：1年次の研究内容について振り返る 復習：研究の進め方と学位申請の方法について十分に理解する	
	2	研究① 研究の動機や目的の確認 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	3	研究② 研究の方法の確認 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	4	研究③ 研究調査や研究保育の計画 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	5	研究④ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	6	研究⑤ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	7	研究⑥ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	8	研究⑦ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	9	研究⑧ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	10	研究⑨ 研究データや研究保育の分析 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	11	研究⑩ 研究データや研究保育の分析 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	12	研究⑪ 研究データや研究保育の考察 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	13	研究⑫ 研究データや研究保育の考察 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める	
	14	研究⑬ 学期末の研究成果のまとめ 学習課題 予習：自身の研究の成果について振り返る 復習：研究の補正について考える	
	15	学位申請手続き 単位修得状況等申告書の作成 学習課題 予習：学科の単位修得科目及び専攻科の単位修得科目（見込みを含む）を整理する 復習：学位授与申請書作成の準備をおこなう	

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自らの保育観および保育者観を確立し、学問的に検証することができる</p> <p>②正しい文法によって文章を構成することができる</p> <p>③自らの研究内容を論理的に文章構成する力を身に着けている</p> <p>④問題や課題について適切な方法で調査・分析する方法を習得し、研究内容を確認することができる</p> <p>⑤問題の仮説に対して適切な方法で実証する方法を習得している</p> <p>研究に対する取り組みと研究の成果について評価する</p> <p>研究の取り組み（50%）、学期末の研究成果（50%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
教授 陣内敦 3			

講義概要	教育（保育）の環境にある様々な問題や課題の中から自らの研究テーマを探り、教育課程内の学習、自主的探究、教育（保育）現場におけるフィールドワークをもとに、研究をおこなっていく。この研究の結果を「学修成果レポート」として作成、学修の総まとめとしての修了研究発表会において口頭発表をおこなう。
授業計画	<p>1 本授業の履修計画① 学修の総まとめ科目履修計画書作成 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：履修計画書作成について必要な書類を補足する</p> <p>2 本授業の履修計画② 学修の総まとめ科目履修計画書作成 学習課題 予習：自分自身の4年間（短期大学の学科及び専攻科）の学修全体の省察をおこなう 復習：履修への意識を高める</p> <p>3 学修成果レポート作成① 問題状況の設定と問題点の絞り込み 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>4 学修成果レポート作成① 文献検討・問題解決の方針立案 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>5 学修成果レポート作成① 研究課題の明確化 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>6 学修成果レポート作成① 論文の章立ての検討 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>7 学修成果レポート作成① 論文全体の調整と最終的なテーマ設定 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>8 学修成果レポート作成① 論文の要旨作成 学習課題 予習：完成した学修成果レポート（論文）を通読する 復習：文章を推敲する</p> <p>9 修了研究発表会の資料作成① 論文（学修成果レポート）集編集 学習課題 予習：完成した学修成果レポート（論文）の印刷原稿を作成する 復習：完成した学修成果レポート（論文）をデータ保存する</p> <p>10 修了研究発表会の資料作成② パワーポイント作成 学習課題 予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>11 修了研究発表会の資料作成③ 口頭発表練習 学習課題 予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>12 修了研究発表会の資料作成④ 質疑を想定しながら補助資料の作成 学習課題 予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう</p> <p>13 修了研究発表会の実施① 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を再確認する</p> <p>14 修了研究発表会の実施② 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の発表について振り返る 復習：助言指導について振り返る</p> <p>15 現在の成果と今後の研究の展望 学生の自己点検票作成 学習課題 予習：自身の学修の成果を振り返る 復習：修了後の研究の展望について構想をおこなう</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自らの教育観（保育観）を確立し、展望をみつけることができる ②自らの研究内容を、正しい文法によって論理的に文章構成する力を身につけている ③問題や課題について適切な方法で調査・分析し、仮説に対して実証する方法を習得している ④研究した内容を適切な方法でプレゼンテーションし、より客観的な自己評価をもとに質疑に対して適切に応答することができる ⑤研究内容を学修成果として定着させ、社会に伝達すべき事項を適切な方法で意見表明することができる</p> <p>論文（学修成果レポート）や研究発表会のプレゼンテーション等の内容によって評価する 下段参照</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	<p>観点別評価表（ルーブリック評価） 「関心・意欲・態度」 【評価の観点】学士（教育学）として社会に貢献する意識と展望を持ち、研究者としての倫理性を備えている。 【評価手段・方法】 自己点検票 【評価比率】 10%</p> <p>「思考・判断」 【評価の観点】問題状況の設定と問題点の絞り込みをおこない、適切な問題解決の手法・手段を用いている。科学的・合理的な思考力が生かされた論理展開がなされている。 【評価手段・方法】 学修成果レポート 【評価比率】 50%</p> <p>「技能・表現」 【評価の観点】明解な論理と正しい文法によって研究のプレゼンテーションをおこなうとともに、研究発表の場に即した運営に貢献できる。 【評価手段・方法】 研究発表会 【評価比率】 20%</p> <p>「知識・理解」 【評価の観点】教育と保育の知識・理解の上に立つ学修の総まとめとしての研究をおこなっている。 【評価手段・方法】研究の過程 【評価比率】 20%</p> <p>出席 受験要件 合計 100%</p>
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
教授 安部恵美子 1			

講義概要	本授業の目的は、専攻科学生に課せられている学位論文を作成するための基礎スキルである、研究論文の読み方・まとめ方・発表の仕方を学ぶことである。具体的には、まず、教員が提示する保育分野を中心とする学術論文を通読してその大意をつかむ演習を行って論文形式の文章に慣れる。次に自分の興味関心に基づき選択した3篇程度の論文を詳読しその内容を要約し自らの意見をまとめたレポートを作成する。最後に、作成したレポートについて発表した後、教員を含む受講者の質問や意見を聞き応答して、自分の考えを発展させるという授業を展開するものである。
授業計画	<p>1 文献購読の方法1 文献の種類とクリティカル・リーディング</p> <p>2 文献購読の方法2 文献の大意のつかみかた サンプル文献を使用したワーク その1</p> <p>3 文献購読の方法3 文献の大意のつかみかた サンプル文献を使用したワーク その2</p> <p>4 文献購読の方法4 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その1</p> <p>5 文献購読の方法5 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その2</p> <p>6 文献購読の方法6 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その3</p> <p>7 文献要約とプレゼンスキル1 アカデミック・ライティング 一事実と意見の相違の認識一</p> <p>8 文献要約とプレゼンスキル2 明快な文書作成の方法 要約文書（論文）の構成</p> <p>9 文献要約とプレゼンスキル3 明快な文書作成の方法 わかりやすい文章表現 図や表の使用</p> <p>10 文献要約とプレゼンスキル4 文献に関連する情報検索の方法（図書館利用 ネット検索 等）</p> <p>11 文献要約とプレゼンスキル5 文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習その1</p> <p>12 文献要約とプレゼンスキル6 文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習その2</p> <p>13 プレゼン&ディスカッション1 文献要約の個別発表と全体討議</p> <p>14 プレゼン&ディスカッション2 文献要約の個別発表と全体討議</p> <p>15 プレゼン&ディスカッション3 文献要約の個別発表と全体討議</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①文献購読の方法の基礎を学ぶ ②興味のある文献（研究論文）を購読する ③文献（研究論文）の内容の要約の方法を学ぶ ④文献要約に関する効果的な発表方法（プレゼンスキル）を学ぶ ⑤要約発表の場の討議に積極的に参加する</p> <p>授業期間中に、教員が提示または、学生が自らの興味関心に基づき選択した学術文献の要約レポートや、発表時の取り組み、討議への参加状況を成績評価の対象とする。評価期間には、授業で発表した要約レポートと1年後期以降の研究計画の提出を求める。</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：「大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ」 学習技術研究会 編著 くろしお出版</p> <p>参考書：よくわかる卒論の書き方」 白井利明・高橋一郎 著 ミネルヴァ書房</p>
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
教授 中尾健一郎 4			

講義概要	<p>①体力・運動能力テストを実施し評価する 運動生活調査の実施し評価する ②トレッキングのポイントを理解する ネイチャーゲームポイントを理解する ③体幹トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングの方法を理解する ④ボルダリングについて理解する スポンジテニス・バドミントン・卓球のポイントを理解する ニュースポーツについて理解する ⑤体力・運動能力テストを実施し評価する 運動生活調査の実施し評価する 診断結果に基づいて運動プログラムを作成する</p>
授業計画	<p>1 運動生活の振り返りと調査結果の分析 運動生活調査の結果をもとに分析し、自己の運動生活を振り返る 学習課題 復習：運動生活調査の結果を振り返る 予習：現在の運動生活を見直す</p> <p>2 体力・運動能力診断の実施と診断結果の分析 体力・運動能力診断の結果をもとに分析し、自己の運動生活を振り返る 学習課題 復習：体力診断の結果を振り返る 予習：現在の運動生活を見直す</p> <p>3 自然体験活動の実践 ネイチャーゲームを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：ネイチャーゲームについて振り返る 予習：ネイチャーゲームの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>4 移動系の運動の実践① トレッキングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にトレッキングができるところがないか探してみる 予習：トレッキングの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>5 移動系の運動の実践② ジョギングやウォーキングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にジョギングやウォーキングができるところがないか探してみる 予習：ジョギングやウォーキングの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>6 体力トレーニングの実践 体幹トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：自宅でできるトレーニング方法を実践する 予習：普段の生活の中で意識してトレーニングを行い、自己の運動生活を見直す</p> <p>7 平衡系の運動の実践 ボルダリングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にボルダリングができる場所がないか探してみる 予習：ボルダリングの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>8 操作系の運動の実践① スポンジテニスを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にスポンジテニスができる場所がないか探してみる 予習：スポンジテニスの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>9 操作系の運動の実践② バドミントンを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にバドミントンができる場所がないか探してみる 予習：バドミントンの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>10 操作系の運動の実践③ 卓球を体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近に卓球ができる場所がないか探してみる 予習：卓球の体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>11 ニュースポーツの実践① ペタンクを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にペタンクができる場所がないか探してみる 予習：ペタンクの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>12 ニュースポーツの実践② ターゲットバードゴルフを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にターゲットバードゴルフができる場所がないか探してみる</p>

	<p>予習：ターゲットバードゴルフの体験をもとに、自己の運動生活を見直す 運動生活調査と体力・運動能力診断の実施 運動生活調査と体力・運動能力診断を実施し、初回の結果と比較して分析する</p> <p>学習課題 復習：運動生活と体力診断の結果を振り返る 予習：調査結果をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>1 4 運動プログラムの作成 前回の調査結果を踏まえて、運動生活を豊かにするアクションプログラムを作成する</p> <p>学習課題 復習：発表の準備をする 予習：授業を通して体験した運動やスポーツの方法について振り返る</p> <p>1 5 運動プログラムの発表 前回作成したプログラムを発表し、相互評価を行う</p> <p>学習課題 復習：プログラムを実践できるように生活を見直す 予習：</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自分の体力・運動能力と運動生活を評価できるようになる ②自然体験活動を体験し、その特性を理解できるようになる ③体力トレーニングを実践し、その方法と効果について理解できるようになる ④移動系、平衡系、操作系の運動とニュースポーツを体験し、その特性を理解できるようになる ⑤自分の体力・運動能力や生活パターンに応じた運動プログラムを作成できるようになる</p> <p>授業に取り組む姿勢（40%） 健康体力向上のための各自の運動プログラムの発表（60%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布 参考書：
履修条件	
履修上の注意	実技の際は、運動にふさわしい服装を用意すること
オフィスアワー	各時間の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
教授 陣内敦 3			

講義概要	芸術学・西洋美術史についての講義と、海岸アートや陶芸体験、美術館企画展鑑賞や展覧会自主企画の演習活動を併せながら授業を進めていく。主観と客観を認識し、自らの感性を磨くことと感性教育について考察する力を培っていく。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 「陣内敦絵画展」を鑑賞する 学習課題 予習：自分にとっての芸術のとらえ方を振り返る 復習：担当教員の芸術活動についてレポートする</p> <p>2 芸術家の生涯① 芸術家Aの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える</p> <p>3 芸術家の生涯② 芸術家Bの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える</p> <p>4 芸術家の生涯③ 芸術家Cの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える</p> <p>5 自然と芸術① 海岸アート体験 学習課題 予習：自分にとっての自然、自分にとっての芸術について考える 復習：自然と人間の関わりを感じる</p> <p>6 自然と芸術① 海岸アート体験 学習課題 予習：自然へ溶け込む感覚を確認する 復習：海岸アートの振り返りをおこなう</p> <p>7 展覧会見学① 展覧会の選択 学習課題 予習：鑑賞したい展覧会を検索する 復習：この展覧会で発表される芸術の内容について予備知識を得る</p> <p>8 展覧会見学② 展覧会鑑賞 学習課題 予習：展覧会で特にどこを注目すべきかを考える 復習：疑問点や興味が湧いた内容を学芸員や教員に質問する</p> <p>9 展覧会見学③ 展覧会鑑賞 学習課題 予習：自分なりの鑑賞の観点を持つ 復習：展覧会の内容についてレポートする</p> <p>10 美術史① 美術史ビデオ鑑賞 学習課題 予習：西洋美術史について既に知り得ている内容を整理する 復習：歴史が伝える内容を考える</p> <p>11 美術史② 美術史ビデオ鑑賞 学習課題 予習：歴史を学ぶ楽しさを感じる 復習：歴史が伝える内容を考える</p> <p>12 心と芸術① 陶芸体験 学習課題 予習：作りたい陶器を考える 復習：陶器の温かさを感じる</p> <p>13 心と芸術② 陶芸体験 学習課題 予習：人間の手と心の温かさについて考える 復習：心をこめる大切さを確認する</p> <p>14 心と芸術③ 陶芸体験 学習課題 予習：人間の無垢な表現を求めていく 復習：陶芸を通して心と芸術について考える</p> <p>15 自分にとっての芸術 レポート作成 学習課題 予習：自分にとっての芸術とのかかわり方について考える 復習：人生を豊かにするための芸術について考える</p>

授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①芸術の領域と意義を考え、芸術と人間を理解することができる</p> <p>②世界の美術史を学び、美術に関する見識を身につけることができる</p> <p>③自然と人間のかかわりの中から、芸術をとらえることができる</p> <p>④人間の手と心の温かさから、芸術をとらえることができる</p> <p>⑤芸術鑑賞によって社会人としての感性を磨くことができる</p> <p>授業回中または以後の評価期間にレポート提出を義務付け、このレポートの成果と学修の取り組みを加味し評価をおこなう。 レポート（80%）、学修の取り組み（20%）</p>
科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分又は事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：テーマごとに、必要な参考資料を提示。</p> <p>参考書：『西洋美術史 東洋美術史 日本美術史』 美術出版社 『おはなし名画シリーズ』 博雅堂出版 他</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	レポート提出の期限を厳守し、学士としての学力水準を確認できる内容を求める。